

令和 7 年度

鹿嶋市 重点施策 事業評価シート

【中間面談による実施】

政策企画部政策推進課

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	1	担当課	DX行革推進室	事業名	政策の選択と集中
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な行財政運営 取組 ②事業の選択と集中による財政運営	市長政策	024 無理無駄ムラニやめる、減らす変える（見える化）		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
活動	政策・事業・業務を検証するとともに、予算・決算・投資額等の概要を整理する。	関係課からのデータ収集及び整理	事業、団体、地区状況等の経年変化把握・共有	○	
産出	予算・決算・投資額等の概要の「見える化」が進み、それぞれの状況が明らかになり、現状を把握しやすくなる。	財務状況の見える化	R6年度決算データ集計完了、財政課へ共有	○	
活動	事務事業や業務プロセス等の「見える化」による課題抽出に取り組む。	個別協議による改善検討	整理・相談件数 23件	○	
産出	課題の洗い出しや費用対効果等を精査することにより、業務改善意識も高めながら、改善を進められる。	業務プロセスの見える化 個別協議事項の改善	改善完了 13件	○	
活動	政策・事業・業務を整理整頓し、改善対象事業を抽出。 見直しに向けた関係者との協議、予算の調整を行う。	・抽出事業の進捗管理 ・効果的なヒアリング体制の確保	・財政共同でヒアリングシート調整 ・予算調整時に合わせてヒアリングを実施予定	○	
産出	政策、事業、業務を整理整頓する。	予算調整時に各部各課で見直しを実施	R8予算査定時に計測	○	
活動	「無理・無駄・ムラ」「やめる・へらす・かえる」の継続したアナウンスを行いながら、多くの行革取組、職員提案を募り、評価を行う。	提案募集、評価実施	・R7年9月末 職員提案5件 ・見える化データ活用 ・ヒアリングシートの運用	○	
産出	多くの提案等を評価・表彰することで、庁内での様々な取組の横展開を図りつつ「止める・減らす・変える」の意識が醸成される。	各種提案等の横展開	各種取組成果を活用した庁内への情報共有	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績（未計数のため前年度末実績数値）	進捗率
①	地方債の残高（億円）	↓	ストック指標 成果累積型	中間成果	139.5	150.6	68.6%
②	事務事業の整理整頓（事業数）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	19	127	668.4%

半期の成果（進捗率）

0% 20% 40% 60% 80% 100%

地方債の残高（億円） 68.6%

事務事業の整理整頓（事業数） 668.4%

ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- 市債残高は、財政計画上の指標となっている令和6年度末見通しの151.48億円を超える削減となっている。
- 事務事業の断捨離（令和4年度抽出事業）は、令和5年度末で廃止・縮小を完了（長期継続検討案件は除く）。
- 令和6年度は、次年度予算編成過程において、127事業の改善を図った。
(以上は、年度末判断指標となるため、今期については当初記載の内容のまま)
- これらの取組は、各部局での検証体制の定着や、財政課との協働による事務事業点検の強化が寄与したものであり、結果として収支均衡型の予算編成に結びつくなど、行財政改革が実効段階に移行している。
- 一方で、行革市長表彰制度終了後の取組維持を図るには、職員の自走的な改善意識の醸成と、データ分析・点検機能の更なる高度化が不可欠である。今後は、これらを次期の制度運用にどう接続させるかが課題となる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
・行革取組市長表彰制度は令和6年度で終了。 ・今後は、改善状況の共有のほか、課題を発見しやすい環境構築、各部の判断力向上等の政策展開を進め、行革の自走化を目指す。	予算ヒアリングシート運用開始に合わせ、活動に「ヒアリングシートの活用」を追加。行革視点での分析や対策検討などにも活用する。	今年度中	・データの分析 ・財政との合同ヒアリング

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

現状の本市取組は、コストを最低限に抑制し最大限の成果を目指している。

将来のリソース削減に向けた「省力化」・「自走化」にも視点を置き、早期課題共有、改善検討、実践、総括といったPDCAサイクルを構築していく。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	3	担当課 政策推進課	事業名 公共交通対策事業	
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (2) 効率的・効果的なネットワークづくり 取組 ②誰もが利用しやすい公共交通体系の形成	市長政策	007 新公共交通への挑戦 905 デマンドタクシーとタクシーチケットの検証	

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	既存事業の精査	市内公共交通に関する情報を収集する	市内公共交通の利用者数を把握した	○
	産出	交通事業者間の情報が連携される	各交通事業者のダイヤ情報を等を集約し公開する	公共交通計画を策定し、市内公共交通のダイヤ情報を等をHP上で公開した	○
	活動	交通結節点における、案内表示の多言語標記を検討	新技術の情報収集	交通系事業者から情報収集を実施（5/15日本電気、6/16トヨタコネクティッド、7/9Y-Eデジタル）	○
	産出	①拠点間（内）移動手段の方向性が整理される ②交通結節点における、多機能な待合環境が整備される	交通結節点に係る情報収集	交通結節点の利用者数を把握した	○
	活動	交通施策と福祉施策との線引き	公共交通計画の施策に「地域コミュニティによる互助交通の導入検討」を位置付ける。	令和5年度に実施済み。	○
	産出	地域コミュニティによる互助交通の導入検討	検討材料の収集	全利用者の内、福祉的利用（介護認定・障害手帳保有・難病患者）の割合を調査	○
	活動	新技術（AIオンデマンド、MaaS等）の導入検討、社会実験の実施	新技術の情報収集	交通系事業者から情報収集を実施（5/15日本電気、6/16トヨタコネクティッド、7/9Y-Eデジタル）	○
	産出	拠点間（内）移動手段の方向性が整理される	AIデマンド交通の導入に向けたシステムを設計する	令和6年度システム設計済 令和7年4月運行開始（4～5月実証運行、6月～実装運行）	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

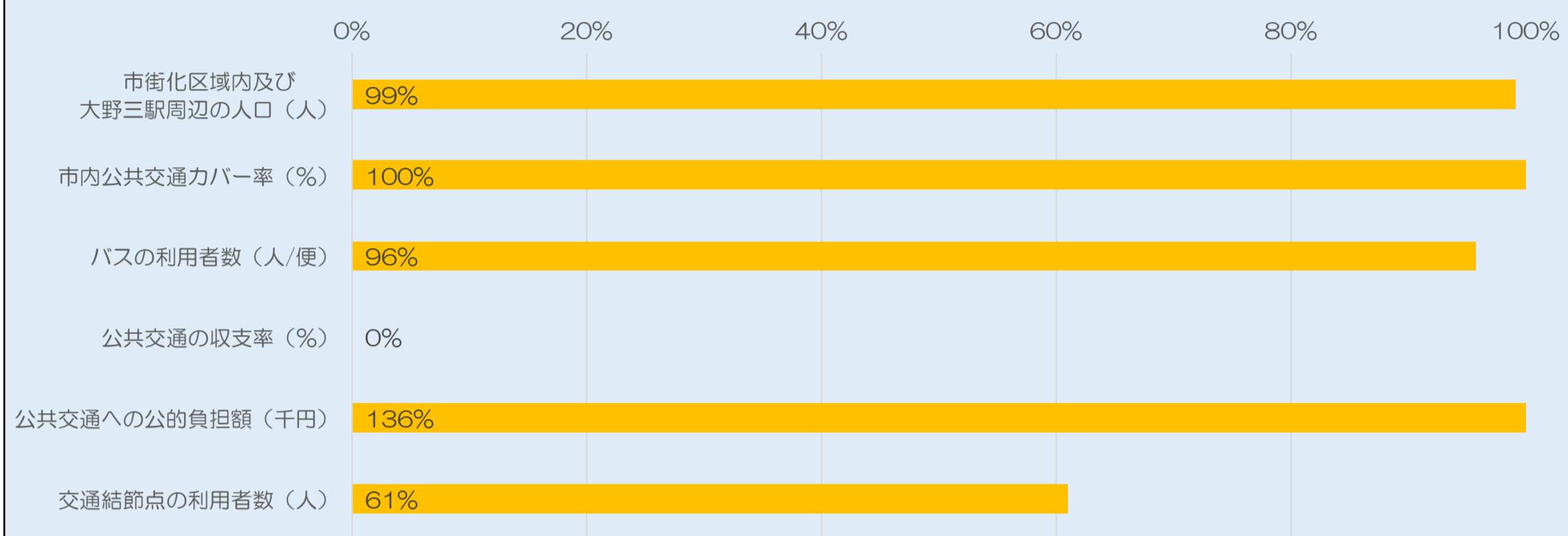
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
新技術（AIオンデマンド、MaaS等）の導入検討、社会実験の実施	ルート・配車の自動最適化により属性は一定程度解消された。一方、ルート・配車に係る改善点は手動でシステム調整し対応する必要がある。	システムには、運行結果に対する評価を取り入れてフィードバックし、自動で改善するような人工知能的な機能はないため。	運行全般として問題が生じている認識はないが、利用者、ドライバー等の意見等を受けながら、委託事業者と協議し、システム側で対応可能な設定調整（運行時間設定等）を行い、快適な運行に向け随時改善する。
地域コミュニティによる互助交通の導入検討	どの地域で、どのような互助交通が可能なのか具体的な検討を行っていない。	現行のデマンドの乗合率が1.3～1.4人/台となっており、利用定員に余裕がある状況。特定の地域の利用者（特にA区域）が利用しにくい状況が多く発生している状況ではなく、現状では必要性が薄いため。	現状、デマンド型乗合いタクシーは、規定時間内（1時間）で送迎を終了し、次の利用者宅に向かわなければならない状況。このため、迎車に時間がかかるA区域の利用者は、場合によっては予約希望が叶わない状況もあり得る。このような状況が多く発生する状況になれば、市としてデマンド以外の交通手段（互助交通）の検討が必要になる。ただ一方で、行政主導ではなく、地域コミュニティによる自然発生的検討は排除するものではない。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市街化区域内及び大野三駅周辺の人口（人）	→	ストック指標 成果累積型	中間成果	39,200	38,844	99%
② 市内公共交通カバー率（%）	→	フロー指標 单年度増減型	直接成果	100	100	100%
③ バスの利用者数（人/便）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	9.3	8.9	96%
④ 公共交通の収支率（%）	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	21.6	-	-
⑤ 公共交通への公的負担額（千円）	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	57,043	41,848	136%
⑥ 交通結節点の利用者数（人）	↑	フロー指標 单年度増減型	産出	49,546	30,193	61%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①市域が人口減少傾向にあることから、指標設定当初と比較し減少しており、R7年3月末からは102人の減少となっている。②デマンド型乗合いタクシーの運行により、交通空白地を網羅し、市内公共交通カバー率100%を維持している。③令和6年度末時点での実績（8.8人/便）と比較し、1便当たり0.1人利用者が増加していることから半年での進捗は概ね予定通りである。④現時点での収支率の算出が困難であることから分析不可。⑤令和6年度にAIオンデマンドシステムを設計し、これまでのシステム借上げ契約と運行委託契約が別々ではなく、システム利用を含む委託としたこと等からデマンドタクシー運行費が減少。また、令和7年度については、デマンドタクシーにおいて新たに県補助及び国補助を活用する予定であることから、全体的な公的負担額は減少し、目標を達成する見込みとなっている。（負担見込額で算出）⑥半期の実績で目標値の61%と順調に推移しており、コロナ収束の影響による利用者数の復調が考えられる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
④⑥利用者数は増加傾向にあるが、今後人口が減少する中長期的には利用者数減が見込まれる。適切に状況を把握する指標としては絶対数ではなく、人口1万人あたりの利用者数という形にすることが考えられる。		次年度以降	地域公共交通計画指標にもなっていることから、計画改訂時に、協議会での協議が必要

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

鹿嶋コミュニティバスについては、運転手の労働基準等を定めた改善基準告示の遵守のため、利用が少ない最終便の減便を10月6日から行うこととなっている。これに関する指標は1便あたりの利用者数のため、むしろ減便後は1便あたり利用者数は増加すると想定されるが、総利用者数としては減少することが想定される。コミュニティバスは地域の足として不可欠なインフラであり、地域交通事業者の協力のもと成り立っていることから、持続可能な形で今後も運行を支援していく必要がある。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	4	担当課	政策推進課	事業名	総合戦略推進事業
施策の位置づけ	施策1－2 多様なライフスタイルを応援する 施策の方向性 (2) 多様な働き方・暮らし方の実現 取組 ①移住・定住の促進	市長政策	023 子育て支援		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 人事課が、職員向けのデータ分析研修会を実施する	産出	研修会の実施	令和7年4月30日実施済	○
	活動 市内・庁内でのプランディングを強化する	産出	市民向けに情報発信 市事業をトピックス化	6件（政策推進課、中央図書館、港湾エネルギー振興課、商工観光課、地域ブランド戦略室、地域づくり推進課）	○
	活動 投げかけた事業担当課の課題に対しコミュニティから反応がある	産出	コミュニティに寄せられた多様な意見の集約	図書館のキャラクターネーミング投票についてメンバーに投げかけたところ、担当部署の想定以上の投票があった	○
	活動 職員とコミュニティメンバーが双方向でコミュニケーションを図る	産出	コミュニティ活性化のためのコメントバック	市とメンバー間のほか、メンバー間でのコミュニケーションも起こっている	○
	活動 ファンコミュニティの参加者が増加する	産出	メンバー数の増加	半期で4,792人増加	○
	活動 A.Iやコミュニティ施策活用しコミュニティを活性化させる	産出	活性化のためのトピックス立て（QON）	ナスカちゃん応援CPなどを実施	○
	活動 コミュニティでの会話を通して生活者の「声」が集積する	産出	コメントの獲得 賛同（いいね）の獲得	592件/半期のコメント 19,178件/半期の拍手	○
	活動 地元特産品や風景・人などを紹介しシティプロモーションを行う	産出	活性化のためのトピックス立て（市）	事業紹介などのトピックス立てを実施	○
	活動 「鹿嶋市」という認知を獲得する	産出	日常生活で「鹿嶋」を思い出した瞬間をメンバーで共有する	毎日投稿可能な「鹿嶋を思い出した瞬間」を投稿するトピックを実施	○
	活動 市が新規立地企業（サテライトオフィス含む）へ補助金を交付する	産出	市内に立地を希望する企業に対して補助金を交付する	R7.3月補助事業完了	○
	活動 ①新業種の企業が立地する ②市内にサテライトオフィスが設置される	産出	①市内にIT企業が立地し、②サテライトオフィスが設置される	R6.12.25オープニングセレモニー開催。R7.4月に本社を市内へ移転。	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

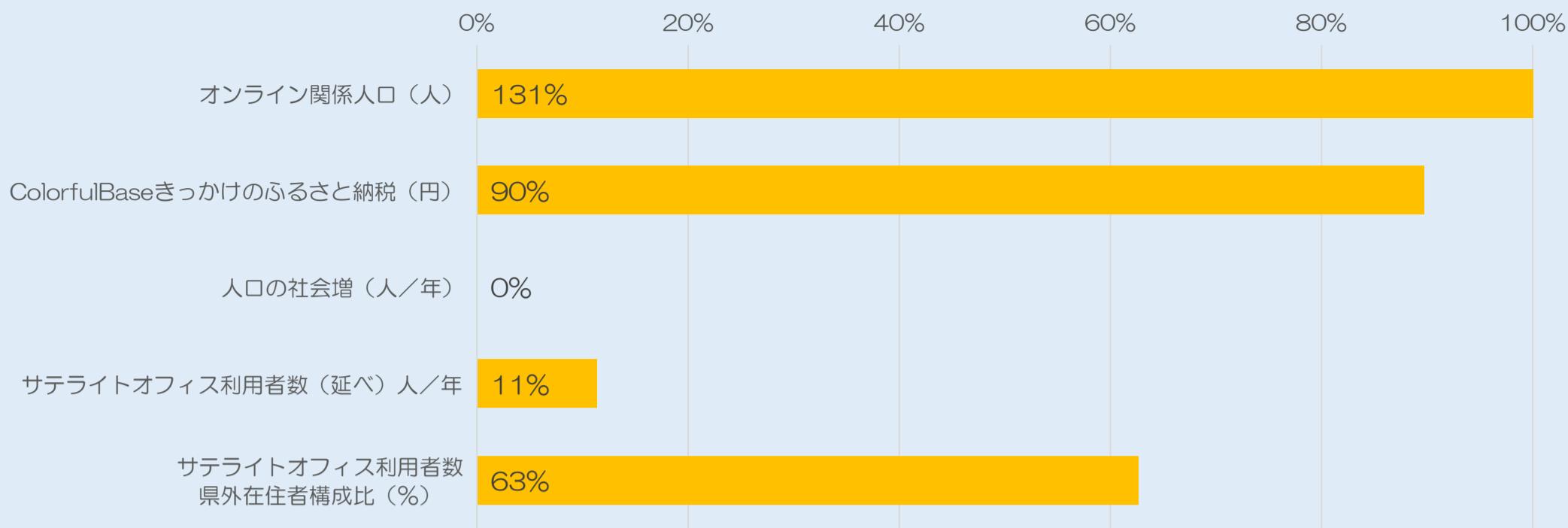
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市内・庁内でのプランディングを強化する	庁内からのトピックス化要望が少ない	庁内の認知不足	事業コンシェルジュからの働きかけや庁内に向けて定期的な周知を行う。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）		指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① オンライン関係人口（人）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	50,000	65,600	131%	
② ColorfulBaseきっかけのふるさと納税（円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	6,300,000	5,650,555	90%	
③ 人口の社会増（人／年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	110	-121	—	
④ サテライトオフィス利用者数（延べ）人／年	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	5,000	568	11%	
⑤ サテライトオフィス利用者数 県外在住者構成比（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	30	18.8	63%	

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

オンライン関係人口は市の人口を上回っており、目標値である5万人を大幅に超えている。また、その具現化であるコミュニティきっかけのふるさと納税額についても順調な伸びを見せ着実に実績を積み上げている。一方で、人口の社会増については、直接的な因果関係・状況の把握が困難であり、社会増に繋がっていないのか、外部要因により実績が相殺されているのか判断が困難であるが、コミュニティ内で実施したアンケート調査では、“鹿嶋市に旅行や用事で訪れるようになった” や “鹿嶋市にふるさと納税をした” と回答した方の割合は上昇傾向にあり、鹿嶋市への関与意識は高まっている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
軽微な修正	文言の修正		

カ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

（この部分は現在未記入の状態です）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	5	担当課	広報秘書課	事業名	地域情報発信事業
施策の位置づけ	施策1－2 多様なライフスタイルを応援する 施策の方向性 多様な働き方・暮らし方の実現 取組 ③多様な交流・かかわりの創出	市長政策	022 市民による鹿嶋市自慢（SNS）		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 写真を中心としたSNS投稿で鹿嶋市の魅力が伝わる情報を広く発信する。	産出 鹿嶋市の風景やイベントの様子がアップされ、「鹿嶋ならでは」がSNS利用者に伝わる。	市外のフォロワーが多い媒体を活用して情報を発信	フォロワー数、情報発信回数、閲覧数 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○
	活動 各部からの情報を適切な媒体に振り分け、広報かしまやLINE等を通じて地域の情報を発信する。	産出 ターゲットに定めているSNS利用者層へ行政情報が届き、身近な媒体から情報を取得できるようになる。	市内のフォロワーが多い媒体を活用して情報を発信	フォロワー数、情報発信回数、閲覧数 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○
	活動 定期的に、情報受信者について分析する。	産出 情報取得に関する受信者の傾向を掴む。	各SNS利用者の性別、年齢、居住地の把握	利用状況 ※別紙資料参照（SNS利用状況）	○
			閲覧数や閲覧分野の把握	閲覧数、閲覧分野 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

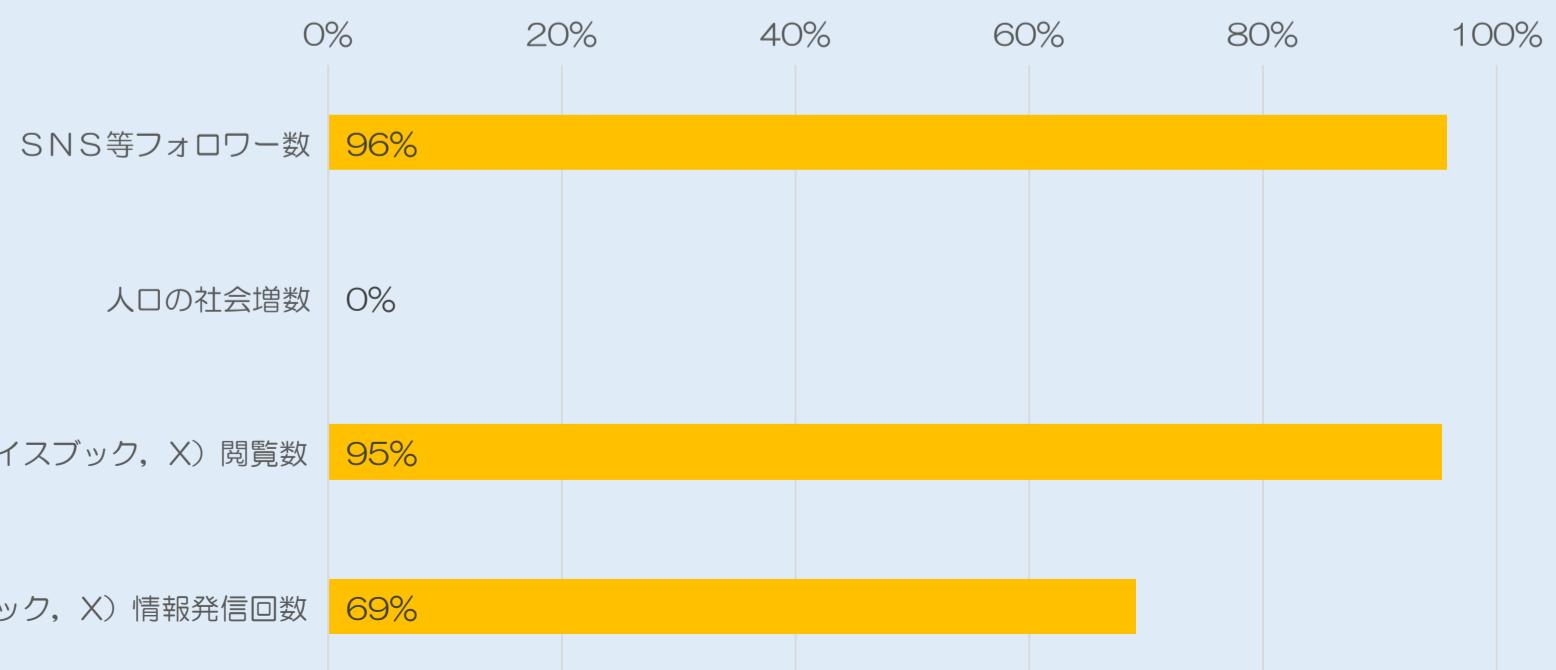
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
定期的に情報受信者について分析する。	インスタとLINEについては、フォロワーをもっと増やすことができる。	インスタは、全国的には女性の利用者が多い傾向にあるが、鹿嶋市は男性の方が多い。LINEは、全年代で90%が利用しているにも関わらず、鹿嶋市は男性利用者が少ない。	SNSの傾向に合わせたフォロワー獲得のための方法等の検討

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	SNS等フォロワー数	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	60,000	57,420	96%
②	人口の社会増数	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	110	-121	-
③	各種SNS（LINE, インスタ, フェイスブック, X）閲覧数	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	1,240,000	1,181,515	95%
④	各種SNS（LINE, インスタ, フェイスブック, X）情報発信回数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	430	297	69%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

公式SNS等のフォロワー数について、全体としてはほとんどの媒体で増であるが、かなめーるが微減であった。SNSの閲覧数は前年同月比で大幅に伸びており、情報発信回数についても前年を上回っている。

（年度当初との比較）

・フォロワー数 全体 +1,719人 (57,420人)

X +187人 (15,513人), Facebook +67人 (2,195人), instagram +477人 (7,505人), LINE +277人 (11,944人), かしまナビ +681人 (8,657人), かなめーる -10人 (9,727人), マチイロ+111人 (1,879人)

（前年9月末との比較）

・閲覧数 全体 +511,511回 (1,181,515回)

X +128,168回 (318,221回), Facebook +16,975回 (60,249回), instagram +285,697回 (438,388回), LINE +80,671回 (364,657回)

・情報発信回数 全体+66回 (297回)

X +24回 (96回), Facebook +15回 (91回), instagram +12回 (46回), LINE +15回 (64回)

人口の社会増数については、情報発信の成果と断定することができず、様々な外的要因も影響していると考えられるため、分析が難しい。

また、年度末頃（特に3月）には転出も多くなるため、最終的にはもっと少ない数字になると思われる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
フォロワー数は着実に増加し、情報発信回数も前年を上回っている。閲覧数も大幅に伸びており、特にインスタの伸びが大きい。 どのような内容が多く読まれているのかなど、傾向についての把握を行う。その傾向に応じて、ターゲット層に合わせた効果的な情報発信につなげていく。	なし		

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	6	担当課	港湾エネルギー振興課	事業名	港湾振興事業
施策の位置づけ	施策4-2 未来につながる産業を創出する 施策の方向性 (1) グリーン成長分野への挑戦 取組 ①海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）の整備と利用促進	市長政策	001 洋上風力ビジョンの推進 002 鹿嶋グリーン戦略（再エネ+水素）		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した產出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「產出」の状況 活動とその產出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が発電事業者との意見交換を行う 市が茨城県・地元利害関係者との意見交換を行う	意見交換	発電事業者：5回 鹿島灘漁業協同組合：6回	○
	産出	市・県・利害関係者・発電事業者が事業化に向けた協議を行う	意見交換	事業化に向けた協議会には時間を見る	○
	活動	市が啓発活動を行う	出前講座・かしまこども大学	出前講座：鹿島高等学校(40名)	○
	産出	市民の理解促進する	理解促進	港湾や洋上風力の重要性を伝えることができた	○
	活動	市と発電事業者が市民・地元企業等へのセミナーの開催する 市が基地港案を使用する事業者とのビジネスマッチングの開催する	意見交換、ビジネスマッチングの開催	銚子市沖のビジネスマッチングは、三菱商事の撤退により白紙となった	×
	産出	市民の理解促進する 地元企業の事業参入意欲が向上する	調整・協議	地元企業をPRするマッチングを検討する	×
	活動	市が港湾インフラのニーズを把握する	意見交換	鹿島灘漁協や港湾利用者及び発電事業者との意見交換	○
	産出	市と関係団体が基地港湾の機能拡充のための国・県への要望を行う	要望活動	県政要望を提出した茨城県や関東地区の意見交換会で意見表明を行った	○
	活動	市が必要用地のニーズを把握する 市が企業遊休地等の把握する	意見交換 情報収集、現地確認	臨海部に活用できそうな企業遊休地は2か所程度	○
	産出	市が土地利用の協力依頼を行う	情報収集	CN関連の事業者から相談がある	○
	活動	市長がトップセールスを行う	情報発信	意見交換会など5回	○
	産出	洋上風力関連企業が鹿嶋市に注目	情報発信	鹿嶋市の取組みをPRすることができた	○

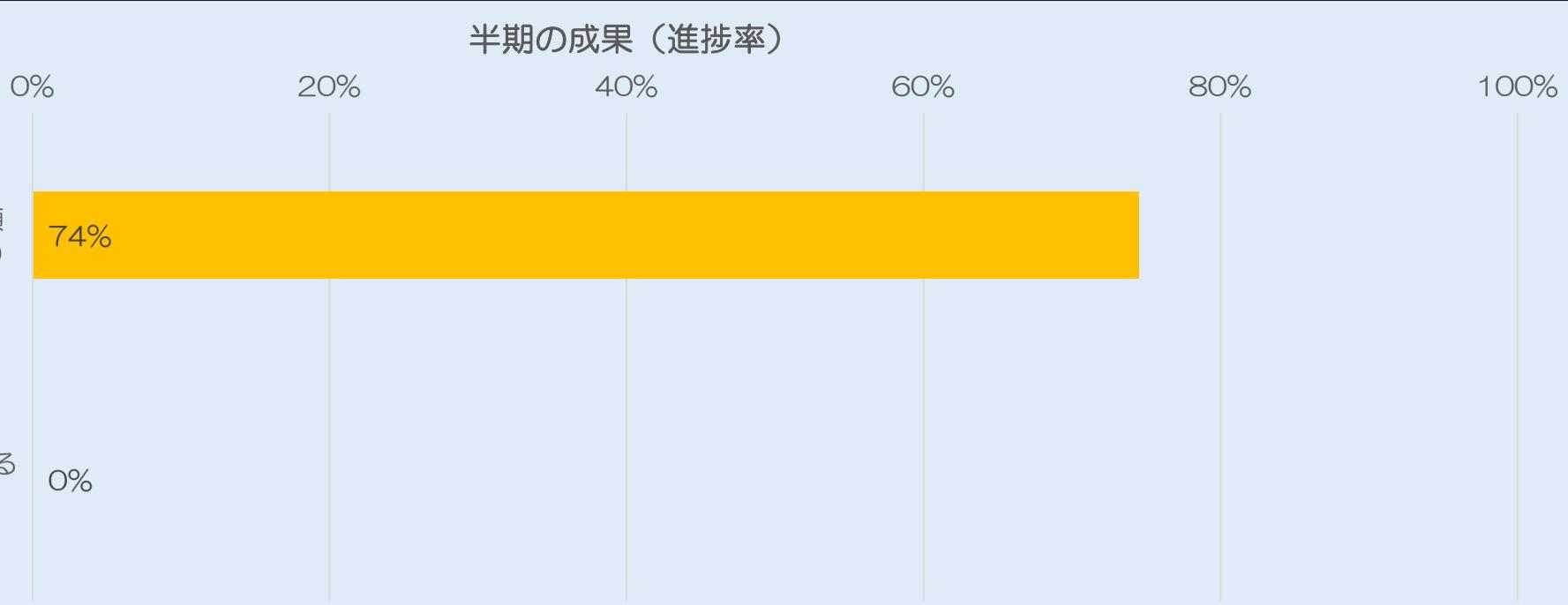
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市と発電事業者が市民・地元企業等へのセミナーの開催する 市が基地港案を使用する事業者とのビジネスマッチングの開催する	銚子市沖発電事業者の撤退	事業環境の変化	ビジネスマッチングの目的角度を変え、実施に向け検討している。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 鹿島港周辺への投資額（固定資産税の評価額）	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	270,000,000,000	201,140,220,337	74%
② 鹿島港外港地区を利用する洋上風力発電事業者	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	1	0	0%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・三菱商事が、秋田・千葉県の洋上風力発電事業からの撤退したことにより、これまで進めていた取組みは、遅れることになる。しかし、その他ステークホルダーとの意見交換や港湾施設の整備要望などは、順調に進んでいる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
ビジネスマッチングの開催については、現在、基地港湾を利用する案件がないため、今後、鹿島港の利用が見込める千葉県の案件について地元企業をPRするマッチングを検討する。	なし		

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

本課の取組みを庁内で共有し、各課の事業に活かすとともに、新たな考え方を取り入れるための取り組みとして庁内研修を継続して実施する。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	7	担当課	財政課	事業名	財務事務経費
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ②事業の選択と集中による財政運営	市長政策	025 経常収支比率・実質単年度収支・3基金 029 財源の振替と確保		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市の財政状況について、職員向けの説明会を実施する	予算説明会時等における繰り返しの状況説明	新規採用職員研修、新任課長補佐研修等などで財政状況等の周知を5回実施	○	
	産出 説明会に参加した職員が増加し、状況を理解する者が増えていく	説明を受けた職員の増加	幹部職員に加え、一般職員向けの説明を繰り返し実施し状況を理解する職員の増	○	
	活動 歳出超過となっている市の財政事業を職員に周知する	予算説明会時等における繰り返しの状況説明	庁内研修や予算説明会などで歳出抑制の周知を図った	○	
	産出 説明会に参加した職員が増加し、状況を理解する者が増えていく	説明を受けた職員の増加	第1次要求段階で10億円の財源不足であるが、前年度よりも不足額が抑制された。	○	
	活動 事業課が事業の断捨離を意識する予算編成方針を作成する	抜本的な予算編成方針の作成	昨年に引き続き枠配分方式による予算編成とする	○	
	産出 職員が事業の意義と必要性を改めて考え、積極的な事業の精査、見直しが進む	事業費削減の努力	部への予算編成権限移譲により優先度に応じた事業選定が期待できる。	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

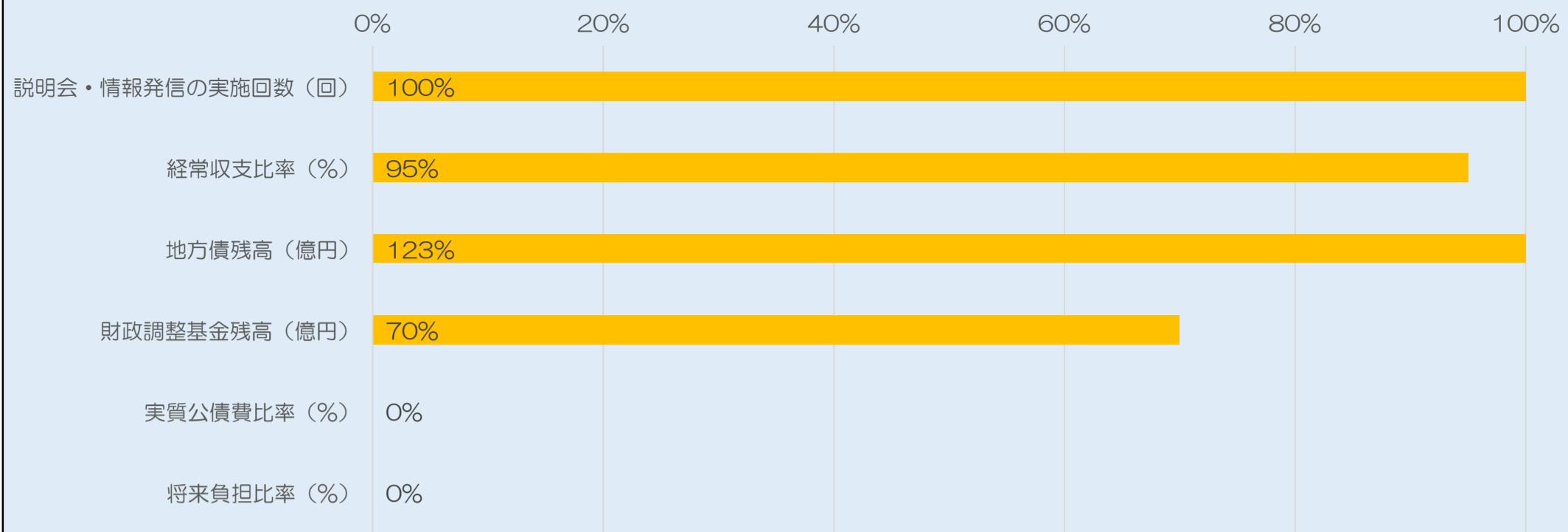
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
職員が事業の意義と必要性を改めて考え、積極的な事業の精査、見直しが進む	枠配分方式による予算編成においても、抜本的な見直しができていない。	継続的に実施してきている事業は、市民の反発等も考えられ廃止を含めた見直しは困難	市の財政状況をより分かりやすく市民に情報提供し、市民が自ら考えられる機会を検討する。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	説明会・情報発信の実施回数（回）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	5	5	100%
②	経常収支比率（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	直接成果	86.2	R6d決算値 90.5	95%
③	地方債残高（億円）	↓	ストック指標 成果累積型	中間成果	180	146	123%
④	財政調整基金残高（億円）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	28	19.6	70%
⑤	実質公債費比率（%）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	7.3	6.9	—
⑥	将来負担比率（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80.0	37.7	—

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

地方債現在高や経常収支比率等の指標も前年度よりも下がっており、結果としては良い方向に進んでいる。しかしながら、基金残高は類似団体や県内でも低位にあり、余裕のある財政運営とまでは言えない状況。また、歳入増以上に扶助費の増が見込まれ、義務的経費以外の歳出抑制が必要となるが、抜本的に事業を変えていくなどの対応をしている部署も多くはない。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
枠配分による予算編成方式に切り替えてから2回目の予算編成となる。引き続き、各部署における権限と責任で財源配分を行う枠配分方式を継続する。一方で、市民（議会）の理解を得るために、正確かつ分かりやすい情報提供が必要であると感じるため、市民周知の方法を改善する必要がある。	現時点での修正事項なし	次年度以降	広報かしまを活用した周知を想定している。先進事例を参考に、数字の羅列ではないマンガ等による「読まれる情報発信」を検討していくことが重要。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- 実施事業の必要性判断においては、事業目的や近隣市における実施内容等を把握し、本市の基金残高が最低ランクであるという財政状況から近隣市と同水準の事業展開が困難であることを十分認識し、廃止・休止を意識した事業見直しを進めていく必要がある。
- 廃止を含めた事業の見直しを推進していくには、議会や市民の理解を得る必要があるため、1年間に入る税金の額やその使い道を、わかりやすい形式で市民に周知し、本市の財政状況を理解してもらえる方法を検討していく必要がある。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	8	担当課	人事課	事業名	職員研修経費
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ⑤職員の人財育成と定員、給与の適正化	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	研修担当課が、職員のヒューマンスキル及び鹿嶋市職員としての使命感を高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	新規採用職員研修、新任研修（係長、課長補佐、課長、部長）などの指定		○
	産出	職員が年代ごとに公務員として身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。		【受講人数・受講率】 新規採用職員研修 14人 (100%) 階層別研修126人 (96.2%) 他	○
	活動	研修担当課が、職員のコンセプチュアルスキルを高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	新任研修（係長、課長補佐、課長、部長）などの指定		○
	産出	職員が役職ごと行政運営にあたって身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。		【受講人数・受講率】 階層別研修126人 (96.2%) 他	○
	活動	研修担当課が、職員のテクニカルスキルを高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	法制執務講座、データ分析活用研修、各種実務研修などの指定		○
	産出	①職員が部署の要請に応じた専門的な研修を受講する。 ②職場内において職員が学びの機会に触れ、自己啓発が促される。		【受講人数・受講率】 法制執務講座3人 (100%) データ分析活用研修4人 (80.0%) 他	○
	活動	研修担当課が、職員の自己啓発に係る制度・機会を創出する。	自主研修提案の募集など		○
	産出	①職員が自ら企画し、学びのための研修を受講する。 ②職員が職場外でも学びの機会に触れ、自己啓発が促される。		資格取得8人 他	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

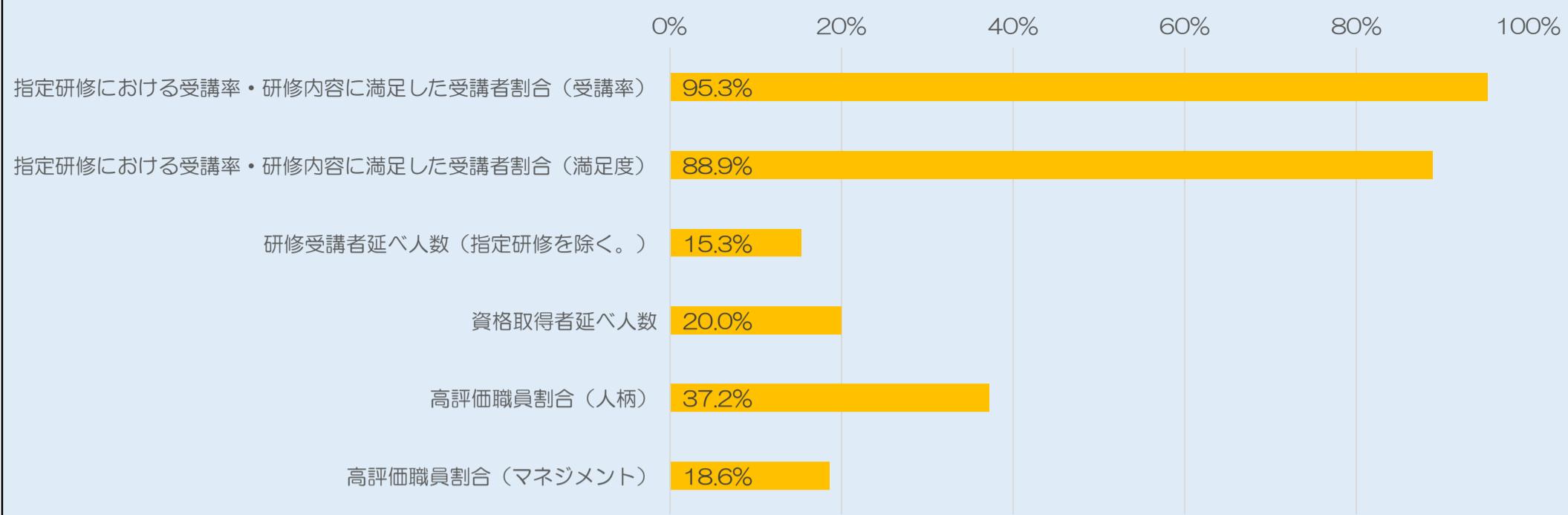
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
【活動】 研修担当課が、職員の自己啓発に係る制度・機会を創出する。 【産出】 ①職員が自ら企画し、学びのための研修を受講する。 ②職員が職場外でも学びの機会に触れ、自己啓発が促される。	指定研修を除く自発型研修について、本年度の参加者数が昨年度に比べて大きく減少しており、昨年度78人に対し、本年度は29人と、約6割の減少となっている。	制度内容及び周知方法は昨年度と同様であるが、職階別にみると、主事・主幹級の若手職員において参加が少ない。	主事・主幹級の若手職員を中心に、改めて制度の趣旨・利用方法等の周知をおこなっていくとともに、組織として職員の自発的な学びを支援し、組織全体の成長力と対応力を高めるため、所属長等の管理職による研修参加の促しを強化していく。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	指定研修における受講率・研修内容に満足した受講者割合（受講率）	→	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100%	95.3%	95.3%
②	指定研修における受講率・研修内容に満足した受講者割合（満足度）	→	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100%	88.9%	88.9%
③	研修受講者延べ人数（指定研修を除く。）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	190	29	15.3%
④	資格取得者延べ人数	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	40	8	20.0%
⑤	高評価職員割合（人柄）		フロー指標 単年度増減型	中間成果	50%	37.2%	37.2%
⑥	高評価職員割合（マネジメント）		フロー指標 単年度増減型	中間成果	30%	18.6%	18.6%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ①② 指定研修においては受講率・満足度ともに100%には至らぬものの、受講対象職員の95.3%が受講し、受講した職員の88.9%が満足している状況のため、概ね予定通り進捗していると考えられる。
 ③ 指定研修以外の研修受講者延べ人数については、目標値に対する進捗率が50%に至っておらず、昨年度実績88人（上半期78人）と比較しても低い進捗率となっており、制度周知と機会創出の不足が要因と捉えている。
 ④ 資格取得者延べ人数については、例年同等の進捗率であり、概ね予定通り進捗していると考えられる。
 ⑤⑥人柄とマネジメントのいずれも目標に達していないが、マネジメントに係る人事評価が18.6%と低い。これはマネジメント能力の育成に関する研修が十分に機能していない可能性が考えられる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるために、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
指定研修以外の研修については、引き続き、制度の周知を行っていくとともに、職員のニーズを丁寧に拾い、限られた予算の中でも実効性の高い学びの機会を支援できるよう、柔軟に対応していく。	ロジックモデルの修正はおこなわずに、研修内容の更なるブラッシュアップにより、修正を図る。		
マネジメント能力については、外部研修メニューの精査と位置づけの見直しを行い、マネジメントスキルを強化する実践的研修への参加を重点化する方向で検討を進めます。	ロジックモデルの修正はおこなわずに、研修内容の更なるブラッシュアップにより、修正を図る。	次年度以降	

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	9	担当課	こども相談課	事業名	地域子育て支援センター運営経費 地域子育て支援拠点事業 いきいきふれあいプラザ管理費
施策の位置づけ	施策1－1 まちぐるみで子育てを応援する 施策の方向性 (1) 子供を生み育てやすい環境づくり 取組 ④母子の健やかな育成支援	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 ①市が支援室や園庭を開放する	子育て中の親子の交流の場が提供され親子同士の交流の促進が図られる	土・日、祝日の開館	上半期開所日数 151日 10:00～17:00	○
	産出 こどもの遊び場が提供され子どもの遊びの環境が整う	必要な親子等の利用の維持	小学生利用登録の増	上半期 登録者数2,300人(全) 延用者数 16,294人	○
	活動 ②市が子育てサークルの活動を支援する (各種イベント等を活用し保護者同士の自主的な交流を支援する)	子育て中の親子の交流の場が提供され親子同士の交流の促進が図られる	連携事業室の設置 子育てサークルの支援	子育てサークル活動室として連携事業室を開放した	○
	産出 こどもの遊び場が提供され子どもの遊びの環境が整う	必要な親子等の利用の維持	小学生利用登録の増	上半期 登録者数2,300人(全) 延用者数 16,294人	○
	活動 ③市が専門職（保育士・保健師・管理栄養士）による育児相談を行う	子育ての悩みや心配事などの相談支援体制が整う	保育士・保健師による育児相談の実施	保育士・保健師等による育児相談を実施した	○
	産出 子育てに関する情報提供体制が整う	保健師相談（奇数月），身体測定（偶数月・月2回）	各種育児イベント等の情報提供の実施	育児相談（18組） 保育士（随時） 身体計測（151組）	○
	活動 ④市がHPやSNS等を活用し子育て情報を発信する	子育てに関する情報提供体制が整う	各種広報媒体の活用	子育て通信（月1回），子育て応援サイトの活用（随時），館内掲示（随時）など	○
	産出 子育てに関する学びや体験の機会が提供される	各種育児イベント等の情報提供の実施	親子イベントや保護者向け講座等を開催 ・市主催事業…継続実施 ・子育て支援団体・個人，民間企業によるイベント等…月1回以上の実施	子育て通信（月1回）・子育て応援サイトの活用（随時）・館内掲示（随時）など	○
	活動 ⑤市が子育てイベントや講習会等を開催する	子育て支援団体・個人，民間企業等への施設の貸出	・管理栄養士による離乳食講座（2回10組） ・民間企業・子育て支援団体等によるイベント（モノづくり，ベビーマッサージ・写真講座・読み聞かせ・ダンス等）…9回・延べ130人 ・誕生日イベント（月1回），英語で遊ぼう（月1回），製作イベント（月2回），年齢別イベント（月3回），運動会，音楽コンサート，人形劇ほか…延べ669人	市主催事業のほか，子育て支援団体・個人，民間企業等によるイベントの開催	○
	産出 子育てに関する学びや体験の機会が提供される	親子イベントや保護者向け講座等を開催 ・市主催事業…継続実施 ・子育て支援団体・個人，民間企業によるイベント等…月1回以上の実施	・管理栄養士による離乳食講座（2回10組） ・民間企業・子育て支援団体等によるイベント（モノづくり，ベビーマッサージ・写真講座・読み聞かせ・ダンス等）…9回・延べ130人 ・誕生日イベント（月1回），英語で遊ぼう（月1回），製作イベント（月2回），年齢別イベント（月3回），運動会，音楽コンサート，人形劇ほか…延べ669人		○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

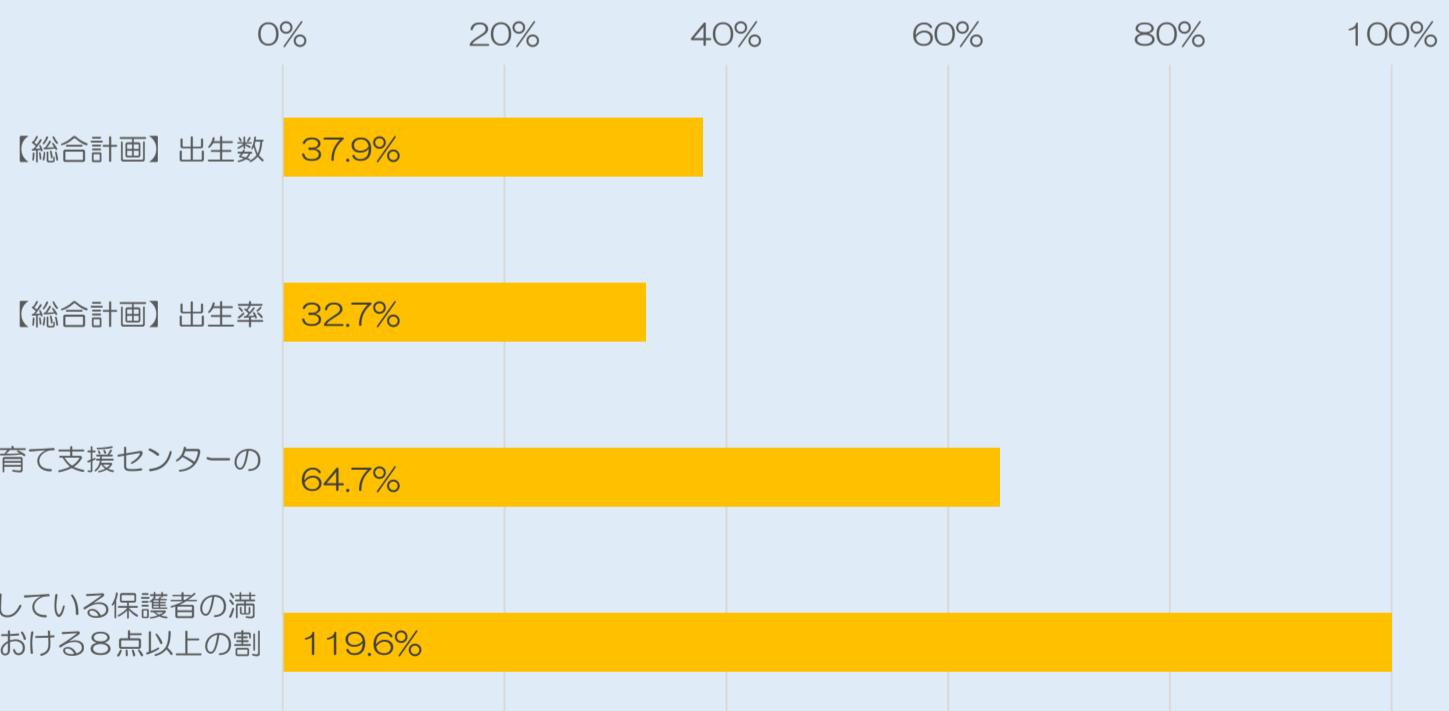
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
②市が子育てサークルの活動を支援する (各種イベント等を活用し保護者同士の自主的な交流を支援する)	保護者が孤立化しないよう、誕生会や離乳食講座等イベントを通じ、保護者同士の交流のきっかけ作りを行っている。しかし、交流する(つながる)保護者がいる一方で、その輪が広がりサークル化へむすびつく段階までには至っていない。	子育てサークルの組織化のためには中心となる保護者が必要。これまで子育てに多少なりとも余裕が出てくる3歳児の保護者がその役割を担ってきたが、3歳児保育が一般的になつたため、支援センターの利用は0~2歳児親子が主となり、組織化が難しくなっている。	必ずしも組織化にこだわることなく、保護者が誰かと繋がり、その関係性を適切に維持でききるような各イベント等の支援を継続する。
③市が専門職(保育士・保健師・管理栄養士)による育児相談を行う	定期的な育児相談を毎月実施しているほか、随時相談は、その都度保育士が対応している。ただし、相談内容は記録することになっているものの、職員間で十分な共有が図られていない状況が見受けられる。	相談内容を共有するための記録、手法の統一化やミーティング等での口頭共有等が十分に行われていない。	相談記録の徹底に加え、業務開始前・終了後における相談等情報の共有を行い、その後の支援に結びづけていく。
④市がHPやSNS等を活用し子育て情報を発信する	子育て情報の発信については、子育て通信、市HP、広報や、センター内情報スペースでの掲示に限られている。また、内容も他関係機関等のイベント等情報が多くなっている。	職員間で情報発信(内容・方法等)の必要性について十分な共有が出来ていない。	SNSの活用等、プッシュ方式での周知方法導入の検討や、センター内情報スペースの有効な活用の検討を行う。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標(単位)	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	【総合計画】出生数	→	フロー指標 单年度増減型	最終成果	425	161	37.9%
②	【総合計画】出生率	→	フロー指標 单年度増減型	最終成果	6.75	2.21	32.7%
③	【KPI】地域子育て支援拠点の利用割合(地域子育て支援センターの未就学児童の利用登録割合)	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	60.0	38.8	64.7%
④	【モニタリング】地域子育て支援センターを利用している保護者の満足度(地域子育て支援センター利用者アンケートにおける8点以上の割合)	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	80.0	95.7	119.6%

半期の成果(進捗率)



ウ 成果の分析(事業全体として予定どおり進捗しているのか?していないのか?その理由も記載する)

令和6年度からの課題(①利用対象年齢検討 ②支援内容の充実 ③地域住民との交流 ④子育て支援の拠点場所としての機能強化)
 ①利用対象年齢の改正検討については、利用実績、利用者アンケート結果、課内・部内、そして子ども子育て会議・議会において協議を重ね、令和8年度から未就学児(兄姉については小学3年生まで)とすることとした。今後は事務手続きを進め、利用者を中心とした市民等への周知を行っていく。
 ②支援内容の充実については、センター外支援(青空保育)の回数を増やしたり、新規イベント(転入親子対象)の開始や、地域ボランティア団体の協力を新たに得ながら支援を実施している。
 ③地域住民との交流の場の設定については、本年度当初から鹿嶋市民生委員児童委員協議会(各地区)への運営協力依頼を行い、本年度からまずは主任児童委員に運営に協力いただいている。
 ④子育て支援施設の機能強化については、令和8年度からファミリー・サポート・センター事業を市直営とすることに伴い、地域子育て支援センター内に事務局設置を検討した。しかし土・日・祝日開所やシフト制である子育て支援センターの運営体制とこれまで実施してきたファミリー・サポート・センターの平日中心の運営体制とが大きく異なるため、次年度以降のセンターでの開設は見送ることとした(→市こども相談課での直接運営とする)。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

工（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
地域住民との交流の場の設定：コロナ禍及び、セイビ堂ドリームパークが新設されてから、地域住民の方との交流の場がなくなっていた。地域の中で見守られている子育て環境を目指すために、地域子育て支援センターの事業運営の中で地域住民との交流の場を設ける必要がある。	以下を加える 活動「市が市営地域子育て支援センター等のイベント等に地域住民の参加を促す」 産出「子育て中の親子と地域住民との交流イベントが実施される」 直接成果「子育て中の親子と地域住民が交流する」 中間成果②「地域住民が子育て親子を優しく見守る」	今年度中	・ボランティア団体の運営参加状況 ・民生委員・児童委員等の運営参加状況

才 その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- 保育士等専門職の人材確保が困難な状況、特に保育士の確保が困難な状況になっている。特に当センターにおいては土・日、祝日運営によるシフト勤務によるところが人材確保が難しいことの大きな原因となっている。
- 今後については、より柔軟で効果的な運営とするため、将来的に指定管理も視野にいれた情報収集をしていく必要性があると考える。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	10	担当課	保健センター	事業名	特定健康診査等事業費
施策の位置づけ	施策3-2 予防と適切な医療により心身ともに健康に過ごす 施策の方向性 (1) 地域医療体制の充実とヘルスケアの推進 取組 (2)生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進	市長政策	O13 健康寿命		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
活動	【特定健康診査】 (1) 対象者全員へ受診券を発送し、特定健診実施の周知を行う。 (2) 関係機関（警備会社、シルバー人材センター、人材派遣会社）等と調整し、集団健診の実施体制を整える。（予約・会場設営・当日運営等） (3) 関係機関（総合健診協会、公民館等）と調整し、特定健診の日程を確保する。		(1) 受診券発送 (2) ①実施会場の確保 (2) ②予約受付 (2) ③健診スタッフの確保 (3) ①集団健診の日程確保 (3) ②医療機関健診の会場確保	(1) 4/22に受診券9,434通発送 (2) ①令和7年度分の集団健診会場確保：鹿島保健センター_23日、大野公民館_12日間、はまなす公民館_1日 (2) ②コールセンター（Web予約含む）設置日数（予約者数）： • 6月期分 5日+ α (1,244人) • 10月期分_4日+ α (1,068人) (2) ③人材派遣会社等と年間契約 • 会場設営（大野4人/日×3日） • 駐車場管理（大野・はまなす2人/日×13日） • 健診受付（4人/日×12日、3人/日×24日） (3) ①集団健診：年間36日 (3) ②医療機関健診：5～3月（県内583か所、うち市内8か所）	○
	身近な場所で特定健康診査を受診できる体制が整う。	集団健診：36日 医療機関健診：令和7年5月～令和8年3月	集団健診：6月期_17日 (1,241人) 医療機関健診：7月請求分まで_163人	○	
	(3) 関係機関（総合健診協会、公民館等）と調整し、特定健診の日程を確保する。 (4) 未受診者への2回目通知で1月期健診の予約なし日を周知する。		(3) ①集団健診の日程確保 (3) ②医療機関健診の会場確保 (4) 予約なし健診の実施	(3) ①集団健診：36日 (3) ②医療機関健診：5～3月（県内583か所、うち市内8か所） (4) 5日間程度実施予定（1月期）	○
	受診しやすい集団健診の日程が設定される。 • 土日実施 • 予約なし日		• 土日実施：年間4日間 • 予約なし日：5日間程度実施予定（1月期）	• 土日実施：6月期_2日間、10月期_1日、1月期_1日 • 予約なし日：1月期実施予定	○
	(5) 特定健診未受診者に対し、受診の必要性やメリットを伝える。 (6) MVM事業申込者のうち、健診未受診者へ受診勧奨を行う。 (7) 広報紙、HP、区長回覧など、あらゆる機会を通じて特定健診の必要性を周知する。		(5) 未受診者通知発送 (6) MVM事業利用者への受診勧奨 (7) 広報紙、HP、区長回覧等での周知	(5) 未受診者通知：1回目_6/13に4,000通、2回目_8/22に6,538通発送 (6) Vitality開始者（1回目）52名には、2週間ごとの励ましメールの際に受診勧奨を併せて実施 (7) 広報かしま5月号・8月号、HP、区長回覧4月・8月で周知	○
	市民が特定健康診査受診の必要性を理解する。	健診受診の必要性を周知する。		6月期と10月期の予約率は令和6年度より減（令和6年度：25.2%⇒令和7年度：24.5%） 6月期の受診率は令和6年度より増（令和6年度：12.2%⇒令和7年度：13.2%）	○

活動	【特定保健指導】 (8) 訪問員（管理栄養士、保健師）の雇用や、対象者抽出、保健指導計画の策定、カンファレンスの実施等、効果的な訪問指導体制の構築を図る。	①保健指導計画の策定 ②人材確保のため保健師・管理栄養士の雇用 ③保健指導対象者の抽出 ④カンファレンスの実施	①6月期分に対する計画を9月に策定し、スタッフ間で共有 ②会計年度任用職員雇用（管理栄養士2名、保健師1名）※うち保健師1名は9/30付で退職 ③健診結果から各保健指導対象者抽出 ④月1回実施し、進捗確認・課題共有	○
産出	市が特定保健指導、重症化予防事業を実施する。	①特定保健指導 ②重要化予防事業	①令和6年度：37% 令和7年6月期：対象者195人（積極的48人、動機付け147人），初回の分割指導126人実施（64.6%） ②令和6年度：74.5% 令和7年6月期：対象者218人（糖尿病138人、その他80人）	×

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

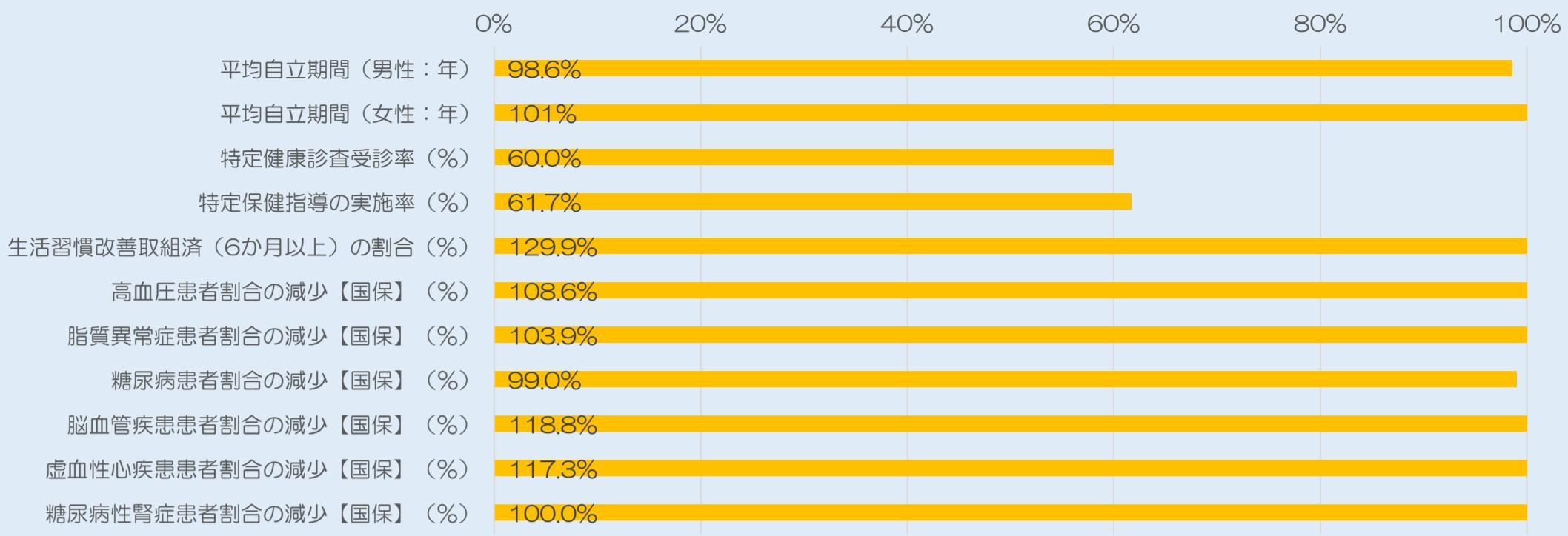
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市が特定保健指導及び重症化予防事業を実施する。	特定保健指導の指導率が目標値に達していない。	・退職・産休育休・休職などによるマンパワー不足 ・平日の日中に在宅していない人や居留守をつかう人、知らない電話番号には出ない人等が一定数いる（指導ができない） ・業務の優先が「保健指導」になりにくい	・年度目標の設定 ・担当以外の職員へ協力依頼 ・実施方法の検討 ・目標の見える化と定期的なカンファレンスでの振り返り

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	平均自立期間（男性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80.0	78.9	98.6%
②	平均自立期間（女性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	84.0	84.8	101%
③	特定健康診査受診率（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	60.0	【令和6年度】36.0% ※令和7年度前期 13.2%	60.0%
④	特定保健指導の実施率（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	60.0	【令和6年度】37.0%	61.7%
⑤	生活習慣改善取組済（6か月以上）の割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	現状値より増加（18.7%）	24.3	129.9%
⑥	高血圧患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（20.3%）	18.7	108.6%
⑦	脂質異常症患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（15.9%）	15.3	103.9%
⑧	糖尿病患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（9.8%）	9.9	99.0%
⑨	脳血管疾患患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（5.11%）	4.3	118.8%
⑩	虚血性心疾患患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（5.16%）	4.4	117.3%
⑪	糖尿病性腎症患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（0.03%）	0.03	100.0%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・関係機関との連携のもと、健診については滞りなく実施。コロナ禍で低下した受診率は年々増加し、コロナ禍前に戻りつつある。今後、国が掲げる目標値（60%）にどこまで近づけられるかが課題となっている。
- ・特定保健指導については、退職・産休育休・休職など保健センター内のマンパワー不足（正職・会計年度併せて専門職が8名減）もあり、目標値の達成とはなっていない。しかし、大きく落ち込んだ令和4年度（29.5%）よりは改善したものの、令和5年度（38.1%）までには届かない見込み。※確定は11月ころ
- ・令和7年度分はこれから対応となるため、随時進捗を確認しながら実施していく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
MVM事業については、保健センターの主要事業の一つである“特定健診の受診率向上対策”の一環として実施してきたものの、Vitality・Mystarともに想定よりも実際の参加者が少ない状況にあることや、委託業務にも関わらず事務負担の多さなどがあり、現行のやり方のまま継続することは困難であると考えている。	評価結果等を踏まえ、項目（事業）の内容について見直しを行う。	今年度中	次年度以降の事業内容について、受託事業者と協議
・専門職の補充が厳しい状況にある。業務分担の内容を評価し、専門職が専門業務（保健指導）を行えるようにするためにも、事務担当職員の増員が必要。 ・特定保健指導等の担当以外の職員（母子担当保健師）への協力依頼について調整する。	必要時、修正を実施する。	次年度以降	事務担当職員（正職員）の増員を希望

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- ・MVM事業のうち、Vitalityについては、当初、保健センターとしては特定健診受診率の向上を目的に位置づけて実施（特定健診のインセンティブ、特定健診を予約した人が利用可能など）したが、受託者側としては一定数利用者を確保したいとの意向もあり、実際の開始時（令和5年度）には、健診受診に関わらず、国民健康保険加入者であれば誰でも利用できることとした。「運動のきっかけづくり」として一定の効果が期待できると考えている。Mystarについては、申込者が少ないため、毎年募集枠を減らしている状況にある。費用対効果が悪く、事業の優先順位等からも、今後の事業展開が難しい状況にある。また、事業者側との連携（打合せ）に多くの時間をとられるなどの課題もあり、現状のMVM事業の形態で実施を継続することは難しく、見直しが必要だと考えている。
- ・随時の周知に関しては、市公式SNS等を積極的に利用したいと考えているが、特に市公式LINEについては、ブロックされること等を懸念する担当課から「年代や対象が限定されている記事は配信できない」「複数回は配信できない」等の制約が多く、随時の情報を配信する手立てが限られる状況にある。全庁的な対応としての検討を行っていただきたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	11	担当課	保健センター	事業名	救急医療対策経費
施策の位置づけ	施策3-2 予防と適切な医療により心身ともに健康に過ごす 施策の方向性 (1) 地域医療体制の充実とヘルスケアの推進 取組 ①地域医療体制の維持・確保	市長政策	O12 医師の拡充		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	【初期救急】 関係機関と調整を行い、初期救急診療体制への支援を行う。 ①在宅当番医制委託 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業補助金交付		①在宅当番医制委託 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業補助金交付	①鹿島医師会へ委託（18医療機関、年間73日実施） ②要綱制定及び医療機関への周知 ※代表市：神栖市	○
	【初期救急】 関係機関と調整を行い、初期救急診療体制への支援を行う。 ①在宅当番医制委託 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業補助金交付	・医師会が在宅当番医体制構築のための経営的準備が整う。 ・各医療機関が、医療提供体制を整える経営的準備ができる。	①在宅当番医制の実施 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業の実施	①34日診療、575人受診 ②令和7年分は12月までの実績をもって申請となるため未定	○
	【二次救急】 関係機関と調整し二次救急診療体制への支援を行う。 ①二次救急告示病院救急医療強化事業補助金交付 ②鹿行南部地域病院群輪番制運営費補助金交付		①市内二次救急告示病院救急医療強化補助金交付 ②鹿行南部病院群輪番制補助金交付	①要綱制定及び医療機関への周知 ②要綱制定及び医療機関への周知 ※代表市：神栖市	○
	【二次救急】 関係機関と調整し二次救急診療体制への支援を行う。 ①市内二次救急告示病院救急医療強化補助金交付 ②鹿行南部地域病院群輪番制補助金交付	各医療機関が、医療提供体制を整える経営的準備ができる。	①二次救急医療提供体制の構築 ②鹿行南部地域病院群輪番制の実施	①10月以降申請受付（小山記念病院） ②鹿行管内3医療機関で実施中	○
	【医師確保】 茨城県と連携し「茨城県地域循環器救急医学寄付講座」開設・運営のための寄付を行う。		「茨城県地域循環器救急医学寄付講座」開設・運営のための寄付	昭和医科大学に寄付講座開設	○
	【医師確保】 茨城県と連携し「茨城県地域循環器救急医学寄付講座」開設・運営のための寄付を行う。	医科大学が寄付講座を開設し、市内医療機関へ循環器内科医が派遣される。	・市内医療機関に循環器内科医2名配置 ・24時間365日循環器ホットライン開設	昭和医科大学から循環器内科医2名派遣	○
	【新規医師確保】 医療機関の新規医師確保支援のための補助金交付事業を行う。		医師確保支援事業	要綱制定及び医療機器間への周知実施（10月以降申請受付）	○
	【新規医師確保】 医療機関の新規医師確保支援のための補助金交付事業を行う。	申請医療機関が、医師を新規に雇用する経営的準備ができる。	不足する医師確保ができる	常勤3名、非常勤2名確保（10月以降申請予定） ※2医療機関からの申請が予定されているため、3,000千円の追加補正が必要	○
	【医師確保】 鹿嶋市が鹿行保健医療圏地域医療構想会議へ参画し、不足する診療科の医師派遣を「茨城県地域医療対策協議会」等へ要望する。		茨城県地域医療対策協議会へ医師派遣の要望を提出	令和7要望 小山記念病院：要望せず（圏域内医療機関との協議により）	×
	【医師確保】 鹿嶋市が鹿行保健医療圏地域医療構想会議へ参画し、不足する診療科の医師派遣を「茨城県地域医療対策協議会」等へ要望する。	茨城県地域医療対策協議会が要望を審議する。 ※医師派遣調整のスキーム ①対象医療機関から要望調査提出 ⇒ 6月頃、鹿行保健医療圏地域医療構想調整会議で審議 → 派遣医師の要望を茨城県医療人材課へ提出 ②10月頃、茨城県地域医療対策協議会及び茨城県地域医療支援センターが、茨城県医師確保計画に基づき、「地域偏在、診療科偏在、政策医療機能等における必要性・重要性を審議」し、要望する医師数（診療科）を決定 ③筑波大学等の医師派遣大学、医師多数区域の医療機関へ医師の派遣を要望 ④医師の派遣決定 ⇒ 翌年4月から対象医療機関へ派遣	茨城県地域医療対策協議会で審議（令和7年10月） ※医師の派遣決定は年度末	対象医療機関：小山記念病院 令和7要望：要望せず 令和6要望結果：要望できず（要件にみたないため） ※要望外の派遣：脳神経外科0.5人	×
	【看護師修学資金貸与】 看護学生就学資金貸与事業		看護学生就学資金貸与条例を制定し募集する	令和7年度2名募集	○
	【看護師修学資金貸与】 看護学生就学資金貸与事業	看護学生が就学するための準備ができる。	利用希望者が応募する	1名貸与開始	×

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

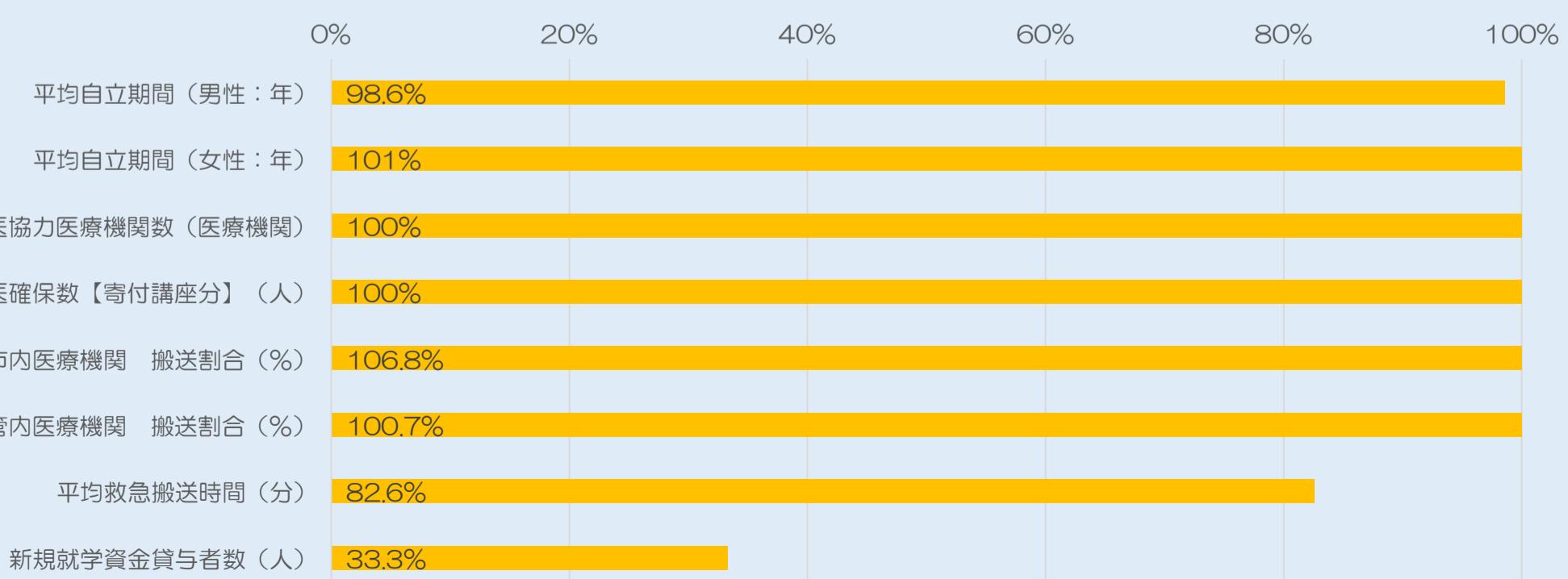
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
【医師確保】鹿嶋市が鹿行保健医療圏地域医療構想会議へ参画し、不足する診療科の医師派遣を「茨城県地域医療対策協議会」等へ要望する。	茨城県が行う医師派遣調整では、医療圏毎に要望できる医師数が決まっているため、要望数が多い場合は地域医療構想会議において調整になる。令和7年度については、小山記念病院は要望は出したが、圏域内医療機関との協議により他の医療機関へ譲ったため要望できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・小山記念病院がこの制度での医師派遣にあまり期待していない。 ・地域医療構想会議での調整方法に課題がある。 	地域医療構想会議での検討方法について、整合性が図られるよう保健所に依頼する。
【看護師修学資金】看護学生が修学するための準備ができる。	利用者が定員に満たなかった。(応募1名/募集2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護専門学校の定員割れ ・大学で看護師資格を取得した者は卒業後すぐに地元に帰ってこない傾向にある。 ・専門学校卒業生は、実習病院に就職する者が多い(白十字看護専門学校は、卒業生の75~80%が白十字総合病院に就職)。 ・高卒後すぐに看護学校等へ進学した者で修学資金貸与を希望する者が少ない(過去2年間の貸与者3名は、いずれも社会人経験者)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集時期の変更(令和6年度と同様に、前年度の1月頃に募集時期を戻し、固定する) ・ホームページの常設化(早い時期から検索できるようにする) ・対象者の拡充検討(准看護師への拡充)

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	平均自立期間（男性：年）	↑	フロー指標 单年度増減型	最終成果	80.0年	78.9	98.6%
②	平均自立期間（女性：年）	↑	フロー指標 单年度増減型	最終成果	84.0年	84.8	101%
③	休日当番医協力医療機関数（医療機関）	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	現状維持	18	100%
④	循環器内科医確保数【寄付講座分】（人）	→	フロー指標 单年度増減型	中間成果	2人	2	100%
⑤	市内医療機関 搬送割合（%）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	現状値より増加（51.8%）	【令和6年】55.3%	106.8%
⑥	鹿行管内医療機関 搬送割合（%）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	現状値より増加（82.0%）	【令和6年】82.6%	100.7%
⑦	平均救急搬送時間（分）	↓	フロー指標 单年度増減型	最終成果	43.3分	【令和6年】52.4分 【中央値】44分 【最頻値】37分	82.6%
⑧	新規就学資金貸与者数（人）	→	フロー指標 单年度増減型	産出	3人	1	33.3%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・医師確保について、本市の人口10万対医師数（令和4年）は177.3人で、県との比較は35人差であるものの、この間確実に縮小している。なお、参考値として医師確保支援補助金を開始した平成22年からは、人口10万人対で48.7人増である。
⇒【理由】市内医療機関による医師確保に係る尽力と、市補助金の活用
- ・搬送先については、令和4年以降は、市内（令和4年：40.9%⇒令和5年：49.8%⇒令和6年：55.3%）、管内（令和4年：78.6%⇒令和5年：79.3%⇒令和6年：82.6%）ともに増加傾向にあり、目標値とした令和3年（コロナ禍で救急搬送数自体が少なく、市内・管内への搬送割合が多かった年）を上回った。
⇒【理由】医師（小山記念病院では10年間で常勤医が33人増え、令和7年4月現在71人在籍）及び医療従事者の充足による、受入体制の強化
- ・救急搬送時間は、鹿島地方事務組合消防本部の現状は延伸（令和元年：49.6分⇒令和6年：52.4分）しており、目標値である令和3年の茨城県の値には至っていないものの、令和5年（54.5分）よりは2.1分短縮した。
⇒【理由】市内及び管内医療機関への搬送割合の増
- ・看護師修学資金貸与については、希望者が少ないため、令和7年度から募集を3人から2人に減らした（目標値は3人のまま）。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
本市の医療体制の充実は、市内医療機関の取組みによる成果が大きく、市としては、引き続き現行の支援体制（補助金等）を維持・継続していくことが必要と考える。	医療機関等との情報共有の中で、必要な修正を実施する。	次年度以降	医療機関からは、昨今の物価高騰・人件費増・改修工事等の影響により、経営的に厳しいとの話を受けている。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

本市における医療体制の充実の医療従事者（医師及び看護師等）の確保については、各医療機関の永年にわたる自助努力に依存するところが大変大きい。市の取組み（運営に係る一部補助等）だけで成果が得られるものではないことから、今後も医療機関との意見交換や連携を密にし、相互に対応に努めていく必要がある。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	12	担当課	環境政策課	事業名	地域省エネ事業
施策の位置づけ	施策4-3 豊かな鹿嶋の海や緑を未来へつなぐ 施策の方向性 (1) 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり 取組 ①脱炭素への取組と気候変動への適応	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 太陽光と連携した蓄電池補助金を市民へ募集する	補助金の募集	応募19件	○	
	産出 蓄電池を採用したい人が増えるきっかけづくりになる	蓄電池普及のポジティブな反応	決定通知19件	○	
	活動 鹿嶋市環境基本計画を策定し情報を発信する	HPによる周知・PR	基本計画（公表済）	○	
	産出 鹿嶋市の環境に関する取り組みがビジュアル化される	炭素排出量削減の普及	鹿嶋市域排出量カルテ 1,869千t（環境省公表）	○	
	活動 環境展、省エネキャンペーンなどの啓発活動を実施する	環境展・省エネキャンペーン活動	環境展での意識啓発 (10月25日開催)	○	
	産出 啓発活動により、省エネに取り組む機会が提供される	省エネ意識の向上	環境展で省エネクイズを実施 (回答者552人)	○	
	活動 省エネに関する職員研修を実施する	市職員への研修	対象職員や研修内容の協議 (11月21日開催予定)	×	
	産出 職場内における研修が行われる	研修による意識の向上	職員へ省エネ研修会の開催案内 (11月21日開催予定)	×	
	活動 鹿嶋市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定する	市施設排出量の公表	R5策定済	○	
	産出 策定内容が職場内に提供される	市施設排出量の調査を実施	上半期のエネルギー使用量を各課へ依頼（測定結果の集計中）	○	
	活動 公共施設で導入可能な再生可能エネルギーや補助金等の情報提供を行う	関係課へのヒアリング	上半期集計後、施設管理担当者とヒアリングを実施	○	
	産出 職員は再エネに関する国の補助金等を考える機会が提供される	再エネ導入の意識向上	再エネの関する補助制度の情報を収集し、関係課へ提供予定	×	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

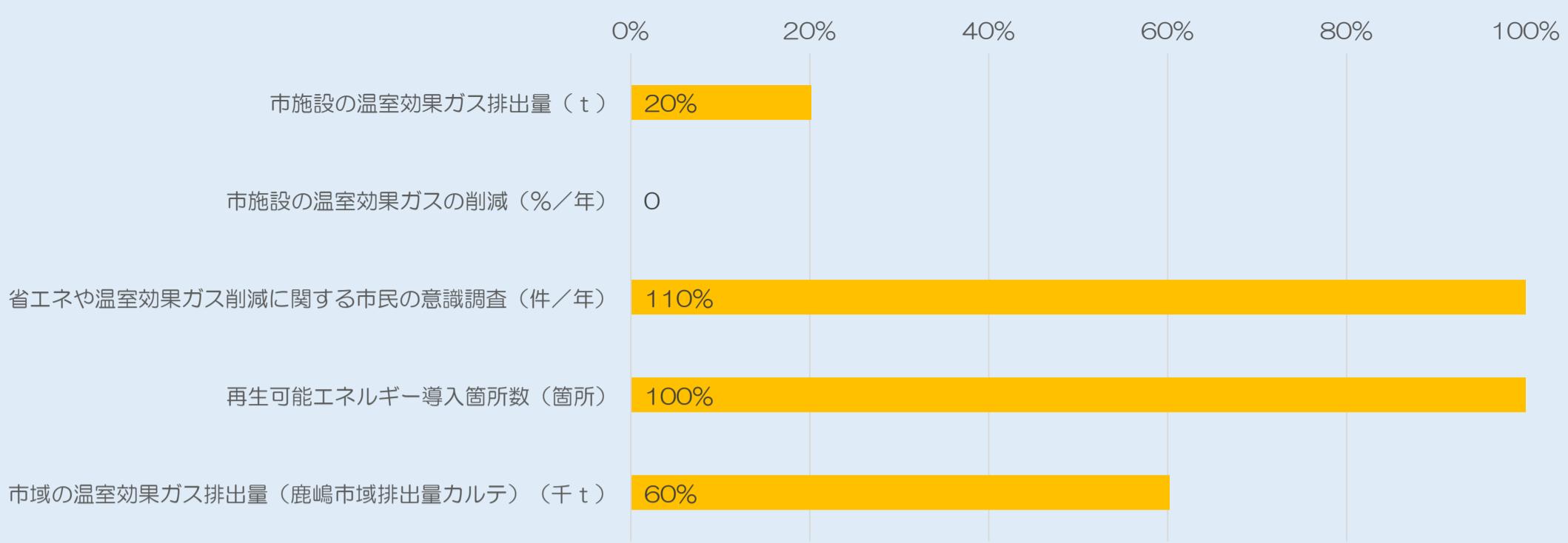
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
鹿嶋市の環境に関する取り組みがビジュアル化される	市民の取組みが捉えにくい	市民の関心度や取組状況を確認する具体的な手段がない	各家庭での省エネに関する取り組みを把握するための手法を模索・検討する

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	市施設の温室効果ガス排出量（t）	↓	フロー指標 単年度増減型	中間成果	4,372	883	20%
②	市施設の温室効果ガスの削減（%/年）	↓	フロー指標 単年度増減型	中間成果	△4 (△16)	-	-
③	省エネや温室効果ガス削減に関する市民の意識調査（件/年）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	500	552	110%
④	再生可能エネルギー導入箇所数（箇所）	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	23	23	100%
⑤	市域の温室効果ガス排出量（鹿嶋市域排出量カルテ）(千t)	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	1,126	1,869	60%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

・市施設の温室効果ガス排出量（上期）

燃料に関しては、猛暑の影響により冷房機器を使用する頻度が高まったため、前年度比31.81 t (5.35%) 増加したものの、電力に関しては、昨年度より高圧電力を使用する49施設が「再生可能エネルギー電力」に変更したこと、前年度比2031.4 t (88.7%) と大幅に減少した。その結果、全体のCO₂排出量では、前年比1999.6 t (69.3%) の減となり、想定以上の効果が得られた。

再生可能エネルギーの導入効果が非常に高いことから、未導入施設へ「エネオク」の積極的な活用を促すとともに、各施設の使用実績や再エネの購入価格の動向を継続的にチェックする。

・環境展・省エネキャンペーン活動

鹿嶋まつりで環境展を開催し、省エネや温室効果ガス削減に関する市民への意識調査として、「家庭ができる省エネや環境負荷」について、来場者552人に対してクイズ形式による意識啓発を行った。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
温室効果ガス1トンが何に相当するのか例示する	参考として例示を追記	今年度中	なし

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

職員が省エネルギー・温室効果ガス削減の取組みを理解し実践するため、効果的な研修内容の提供と対象職員の選定等について、人事課と協議・調整を行っている。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	13	担当課	ふるさと納税戦略室	事業名	ふるさと納税推進事業
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ③安定した財源確保と新たな自主財源確保の工夫	市長政策	005 ネット販売支援(ふるさと納税) 026 ふるさと納税の刷新		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市が共通返礼品の調査を行い、追加の交渉を行う	共通返礼品事業者を訪問し出品交渉を行う。	河内町：(株)トキタ 潮来市：高須産業	○	
	産出 共通返礼品の出品交渉がまとまる	共通返礼品を追加する	河内町：国産キャビア 河内町：トラフグセット 潮来市：浴室暖房乾燥機	○	
	活動 市が他市の人気返礼品の調査を行い、新規開発の交渉を行う	他市人気返礼品について、市内事業者に製造を依頼する	鹿嶋市：田口商事 鹿嶋市：焼肉道場	○	
	産出 他市の人気返礼品の出品交渉がまとまる	他市人気返礼品を追加する	冷凍銀鮭、味付け肉について、国へ申請（12月商戦までに投入予定）	○	
	活動 市が他市同等品の価格調査を行う	返礼品の値上げ可能性を調査する	他市寄附額、レビュー等の調査を実施	○	
	産出 返礼品価格の値上げ見直しが行われる	他市と比較し廉売している返礼品の値上げを行う	鹿島焼芋の値上げ（注文数を減らさずに、寄附額UP），ファストバス導入（平均15%利用）	○	
	活動 事業者が商工・農林の補助金を活用した返礼品開発を行う	農林：①6次産業化支援事業補助金、②地産ブランド応援補助金 商工：商品開発委託料	農林水産課で、①②とも申請受付 商工観光課で返礼品開発のための事業「カシマダチ」実施	○	
	産出 補助金を使った返礼品が開発される	補助金きっかけの返礼品開発が行われる	カシマダチ：プレイヤー34件、クリエイター17件の応募があり、返礼品になりうる企画が採用予定で、今後のメンタリングにより開発が促進される見込み	○	
	活動 市が地銀等を活用し新規返礼品事業者を開拓する	既存事業者、地元金融機関のネットワークから新規返礼品事業者を見つけて交渉する	原材料供給の案件（冷凍銀鮭）を優先し、水戸市の事業者を訪問	○	
	産出 新規返礼品事業者とのネットワークが繋がる	地元返礼品事業者と紹介事業者を繋ぐ	加工前冷凍銀鮭の供給開始	○	
	活動 市が供給不安の返礼品を抽出し調査を行う	原材料の不足による品切れの恐れのある返礼品を調査する	ハラミメシ用豚ハラミ、干し芋用紅はるかについて聞き取り調査実施	○	
	産出 供給不安の返礼品の現況が判明する	聞き取り調査の結果に合わせて、解決策を提示する	【豚ハラミ】価格高騰による仕入れ困難に対応するため、土浦市の食肉事業者を紹介し、価格交渉により供給開始 【紅はるか】寄附の急増による原材料の不足に対応するため、鉾田市の芋事業者を紹介し、仕入れ交渉中	○	

活動	市が低評価レビューの検証を事業者と行う	令和6年度低評価レビュー返礼品の検証	事業者・中間事業者と検証を行う	○
産出	低評価レビューの原因が判明する	低評価レビューの原因に合わせ対策を実施する	他市のレビュー等を分析し、本市との差について対策を実施（訳あり紅はるか、ミニトマト等の返礼品ページでの説明書き等追加）	○
活動	市が積極的な情報発信を行う	SNS等による情報発信を強化する	×プレミアムプランに加入	○
産出	リリース回数が増える SNS指標が上る	情報発信に係る成果指標が向上する	×フォロワーを3倍以上の1900人超にし、平均インプレッションが647回から2,833回まで上昇 R6d_4-9月：654,832 R7d_4-9月：2,878,515	○
活動	市が中間事業者と効果的な広告運用を行う	中間事業者任せにしない運用の実施	毎月の定例MTGで広告の運用実績について協議調整	○
産出	広告指標が上る	広告の投資効果（ROAS）の向上	R6d_4-9月：340% R7d_4-9月：810%	○
活動	市が返礼品・事業者の取材を行う	応援共感プランディングのため、事業者に焦点を当てた記事をの取材を行う	4事業者の取材実施（R6dは年間で2事業者）	○
産出	市が返礼品・事業者のストーリーを発信できるようになる	応援共感プランディングのため、事業者に焦点を当てた記事を配信する	4事業者5記事を配信し885PV	○
活動	寄附者の応援を喚起する使い道を訴求するクラファンを企画する 市が応援共感に繋がりそうな庁内の取り組みを集める	使い道ファーストなクラファンを企画する	3件（医療・教育・若者支援）についてクラファン事業者と調整中	○
産出	市が使い道ファーストなふるさと納税クラファンを実施する	使い道に焦点を当てたクラファンを実施する	ポイント制度廃止後の「応援共感」価値が向上するクラファンを第3四半期に実施予定	×
活動	市が寄附の活用実績を見える化させる	寄附者の信頼獲得のため、各種数値を公開し見える化する	4半期ごとの寄附実績をnote記事にして配信	○
産出	市が寄附の活用実績を寄附者に公表できるようになる	寄附の充当状況を公表する	9月議会での決算認定後に公表予定	×

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

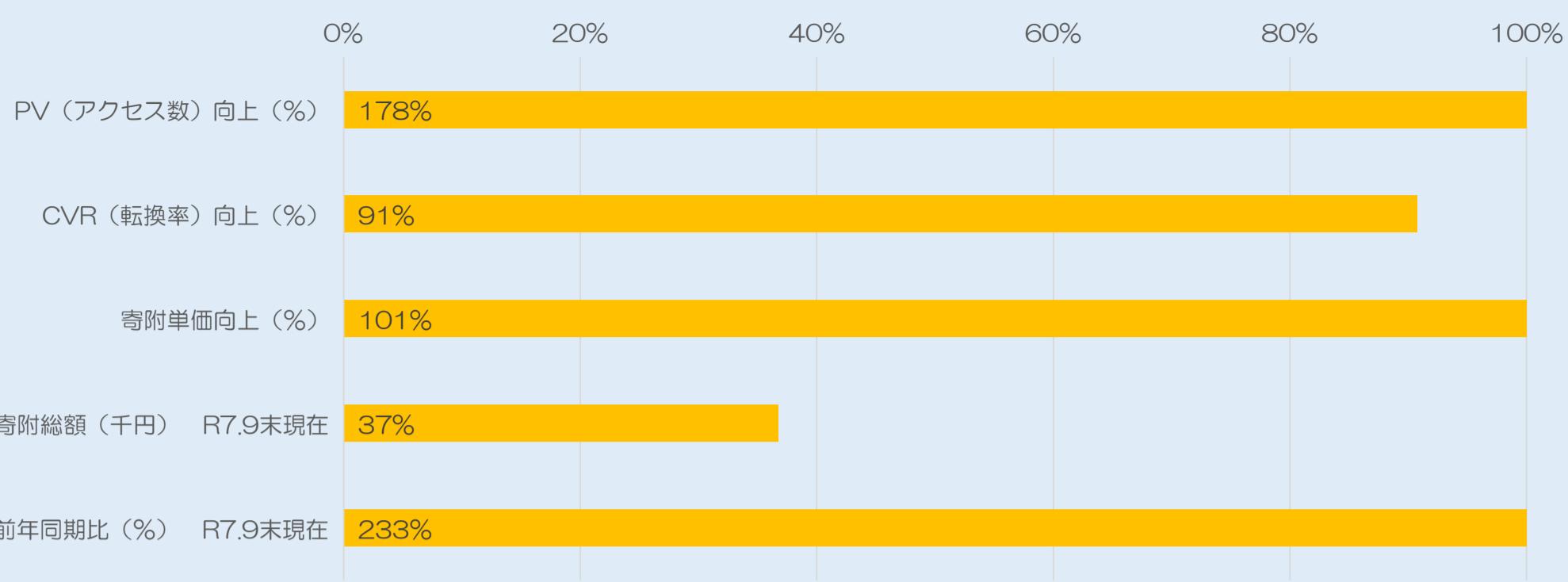
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
該当なし（クラファンと実績公表については、時期到来により実施）			

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① PV（アクセス数）向上（%）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	130	231	178%
② CVR（転換率）向上（%）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	130	118	91%
③ 寄附単価向上（%）	↑	フロー指標 单年度増減型	中間成果	130	131	101%
④ 寄附総額（千円） R7.9末現在	↑	フロー指標 单年度増減型	最終成果	600,000	220,610	37%
⑤ （参考）前年同期比（%） R7.9末現在	↑	フロー指標 单年度増減型		209	487	233%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・売り上げの公式 ($PV * CVR * 客単価$) に沿った指標を設定（ふるさとチョイス・楽天ふるさと納税から算出）。上期のアクセス数及び寄附単価については30%以上向上している。転換率については、少しづつ伸びてプラスに転じたものの（第1四半期：50.5%），広告の効果によりアクセス数が伸びているが、寄附に至らず離脱しているため、118%に留まっている。
- ・寄附総額についても、目標額6億円達成のためには前年同期比208.8%の成長が必要なところ、9月の駆け込み需要の影響はあるが486.6%の成長となっている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
人気返礼品である「干し芋」の生産量が寄附の伸びほど増やせておらず、一時在庫切れとなる。在庫増に向けた交渉を事業者と行いつつ、国申請中の他市人気返礼品「冷凍銀鮭」「味付け肉」を新規で投入し、12月商戦までに認知を拡大する。	特になし	今年度中	認知拡大のためのPR増
転換率については、返礼品ページ間の回遊性を高めて離脱を防ぐとともに、説明書き等の見直しを行う。	特になし	今年度中	返礼品ページのブラッシュアップ

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

特にありません

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	14	担当課	商工観光課	事業名	広域観光対策事業
施策の位置づけ	施策4－1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 (1) 観光業のチャレンジ推進取組 ③スポーツツーリズム等の充実	市長政策	019 歴史探究ツーリズム		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が観光に関する情報を収集し、発信する。	商工観光課公式Instagram 50件投稿	20件投稿	○
	産出	市内外の人に鹿嶋市の情報が伝わる	Instagram閲覧回数15万回	閲覧回数約15.6万回	○
	活動	市がフィルムコミッション事業で撮影隊を受け入れる	撮影隊の受け入れ	7件受け入れ	○
	産出	市がロケ地として認知され、テレビ番組等が放送される	市内紹介テレビ番組3件（目標）	市内紹介テレビ番組1件放送	○
	活動	市がテレビ局や制作会社、他自治体にヒアリングする	メディアに市の情報を提供	受入れ事業者へのヒアリング2件	○
	活動	市がテレビ局や制作会社に番組制作を働きかける	メディアに市の情報を年4回提供	今年度1回提供	○
	産出	市内の観光スポットや飲食店を紹介するテレビ番組等が放送される	市内紹介テレビ番組3件（目標）	市内紹介テレビ番組1件放送	○
	活動	市や東国水郷観光推進協議会がモニターツアーを実施する	モニターツアーの実施	東国水郷観光推進協議会にてモニターツアーを実施（10月、2月）	○
	産出	インフルエンサーがPRする	インフルエンサーが市について1回投稿	東国水郷観光推進協議会事業にて相川七瀬さんに依頼中。	○
	活動	市がイベントを実施する	イベントを実施	海水浴場の開設（昨年に引き続き水鉄砲及びキッチンカーイベントを実施）	○
	産出	市外からイベントを目的に人が来る	観光入込客数200万人目標	観光入込客数が約46万人（8月末まで）	○
	活動	市がDMOと定期的に課題共有する	2ヵ月に1回、状況確認を行う	適時課題を共有した。	○
	産出	DMOがサッカーを中心に合宿客を呼び込む	スポーツ合宿の宿泊者数8,000人目標	スポーツ合宿の宿泊者数5,152人	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

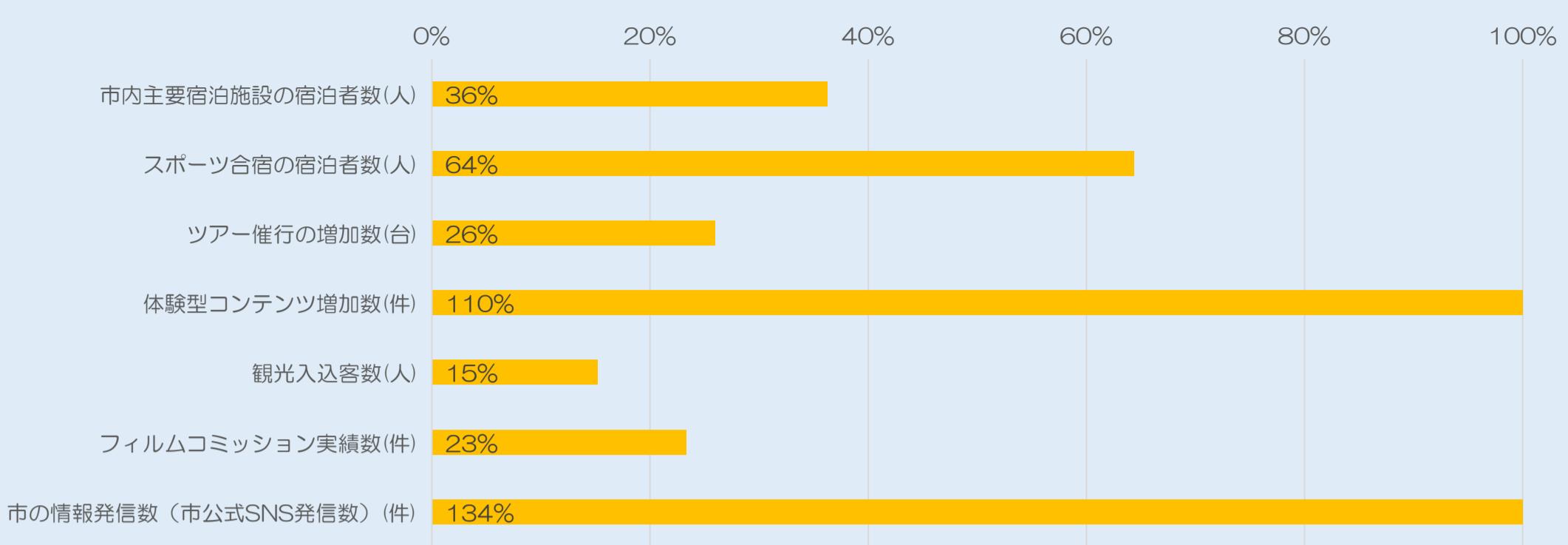
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）		指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市内主要宿泊施設の宿泊者数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	120,000	43,541	36%	
② スポーツ合宿の宿泊者数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	8,000	5,152	64%	
③ ツアー催行の增加数(台)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	50	13	26%	
④ 体験型コンテンツ增加数(件)	↑	ストック指標 成果累積型	活動	10	11	110%	
⑤ 観光入込客数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	3,000,000	455,240	15%	
⑥ フィルムコミッション実績数(件)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	30	7	23%	
⑦ 市の情報発信数（市公式SNS発信数）(件)	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	50	67	134%	

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

情報発信事業として、今年6月から開設した公式Xでは47回投稿し、フォロワー数は70人。昨年度から始めた商工観光課公式Instagramは、今年度20回投稿、フォロワー数も1,415人と順調に増加している。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
情報発信の見直しとしては、ただ「量を増やす」だけではなく、戦略的に誰に、何を、どう届けるかが重要となる。市内商業者や地元住民等の理解と協力を得ながら、情報発信していく。	昨年度、事業全体を見直したため、ロジックモデルについては見直ししない。	次年度以降	社会情勢や観光トレンドの変化に応じて、KPIの内容や測定方法を見直していく。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	15	担当課	商工観光課	事業名	商工業振興事務経費 チャレンジショップ支援事業
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 (3) 商工業のチャレンジ促進 取組 ③起業・創業体支援体制の充実	市長政策	004 チャレンジショップ		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した产出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市がチャレンジショップ補助金を交付する	産出 補助事業者が資金の一部を調達できる	1件交付	交付決定1件	○
	活動 市がお試しチャレンジショップ運営事業者を選定し、支援する	産出 運営事業者が物件を確保、改裝する。	運営事業者を選定	事業者決定	○
	活動 市と商工会が金融機関と連携する	産出 事業者が資金を借り易くなる	中小企業に資金融資をあっせん	物件確保に向け、土地所有者等と調整中 自治金融審査会で承認7件実行	○
	活動 市が中活計画内の空き店舗を把握する	産出 事業者が空き店舗を借りやすくなる	融資を実行した事業者に保証料補給補助金を交付	7件62万円を交付	○
	活動 市と商工会が商い元気塾の支援	産出 出店希望者が経営ノウハウを学べる	随時空き店舗の相談を受ける	商工会や市内事業者と連携して空き店舗や家主の意向について情報収集している。	○
	活動 市が空き店舗の解消を図る	産出 事業者が空き店舗を借りやすくなる	空き店舗の解消1件	解消見込1件	○
	活動 市と商工会が商い元気塾の支援	産出 出店希望者が経営ノウハウを学べる	創業セミナーの開催	創業セミナー1回実施5人参加	○
	活動 市が商工会に新ブランド開発のためのビジネスコンテストの実施を委託する	産出 事業者が良い意味で競い合う場ができる	創業スクールによるノウハウの提供	創業スクール第1回5人参加(全4回予定), Web版3人参加	○
	活動 市が商工会に新ブランド開発のためのビジネスコンテストの実施を委託する	産出 事業者が良い意味で競い合う場ができる	ビジネスコンテストの実施	応募者34件	○
	活動 市が商工会に新ブランド開発のためのビジネスコンテストの実施を委託する	産出 事業者が良い意味で競い合う場ができる	アイデアをプラッシュアップする場の提供	最終審査を12/13(土)に予定	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

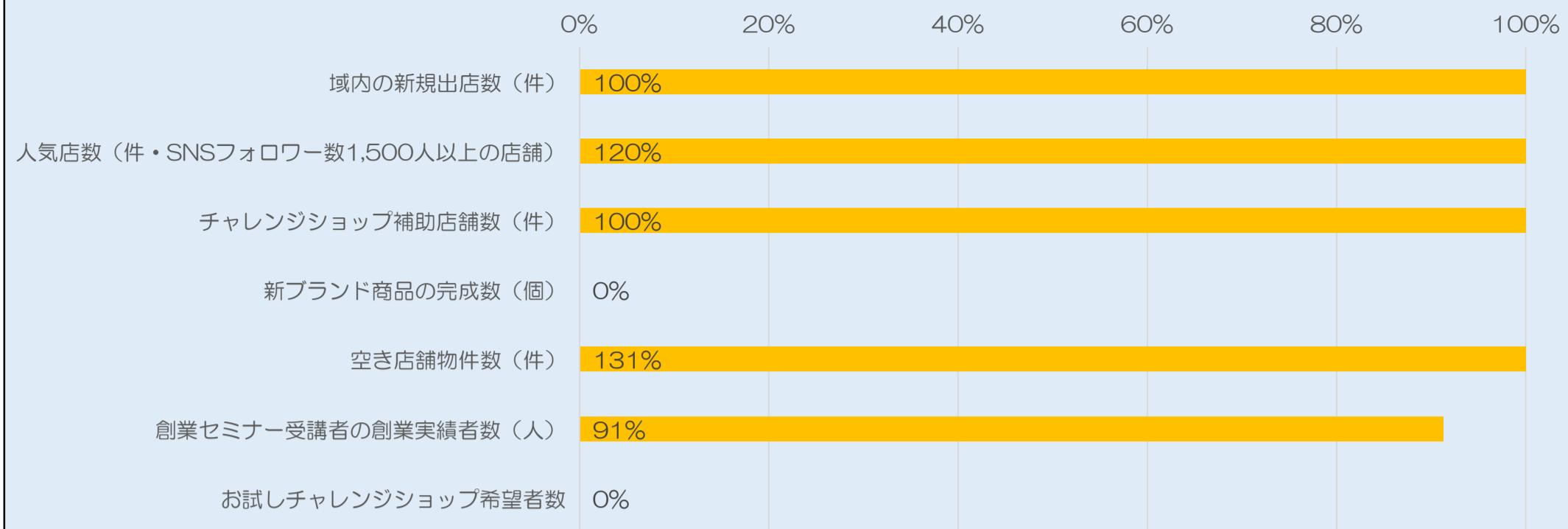
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	域内の新規出店数（件）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	18	18	100%
②	人気店数（件・SNSフォロワー数 1,500人以上の店舗）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	5	6	120%
③	チャレンジショップ補助店舗数 (件)	↑	ストック指標 成果累積型	活動	15	15	100%
④	新ブランド商品の完成数（個）	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	1	0	0%
⑤	空き店舗物件数（件）	↓	ストック指標 成果累積型	活動	-13	-17	131%
⑥	創業セミナー受講者の創業実績者数 (人)	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	23	21	91%
⑦	お試しチャレンジショップ希望者数	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	1	0	0%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

新規事業であるお試しチャレンジショップは、プロポーザルを経て事業者を決定し、物件確保に向け土地所有者等と調整している。また、ビジネスコンテストについても、募集期間8/1～8/31でエントリーを募集したところ、34件（うち市外は13件）もの応募があった。最終審査に5件を選定し、応募者とクリエイターとのマッチングを進め、アイデアのブラッシュアップを行っていき、商品化に向けて計画的に進める。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
現在実施しているチャレンジショップについては補助金交付型であったが、事業者育成プログラムを加え、事業継続可能性を伸ばす取り組みを検討。	無し	次年度以降	交付された事業者の調査、委託事業者との調整

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

4月総括会議にて指示のあったAIシステムについては、センサーダブル等の価格を調査したところ、ナンバープレートの地名まで読み取るのは高価であった。今後もAI活用は検討課題としながら、当面はリーサスの通過人口メッシュ分析を活用し定点観測を行っていく。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	16	担当課	農林水産課	事業名	農業振興事業
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 農水産業のチャレンジ促進 取組 ①新たな担い手の育成・支援	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した產出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「產出」の状況 活動とその產出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	產出			
	活動	・市は新たに就農する者に新規就農総合支援金を交付する ・市が認定農業者等連絡協議会による認定農業者への農業経営・農業技術向上の活動への支援を行う ・市が地域農業再生協議会による経営所得安定対策への補助を行う	・新規就農総合支援金の交付、認定農業者等連絡協議会・地域農業再生協議会の支援	新規就農総合支援金交付者数 2名（継続）	○
	産出	・市への新規就農相談者が増加する	・鉢田地域農業改良普及センターと連携した相談業務	新規就農相談者 4名	○
	産出	・市への認定農業相談者が増加する	・認定期間終了者への更新相談及び新規認定相談業務	認定農業者相談者 2名	○
	活動	・市が農業団体の地場産品PR事業、天敵昆虫剤購入事業、有機農業事業等への補助を行う	・銘柄産地促進補助金及び6次産業化支援事業に係る補助金の交付 ・環境にやさしい農業アップ支援事業の推進 ・環境保全型直接支援対策事業の推進	・銘柄産地促進補助金制度の説明:2名 ・6次産業化支援事業相談者制度の説明:1件 ・天敵昆虫事業に係る説明:1件 ・有機農業事業に係る説明:0件	○
	産出	・農業団体への相談者が増加する	・銘柄産地促進補助金及び6次産業化支援事業に係る補助金交付 ・環境にやさしい農業アップ支援事業に係る交付 ・環境保全型直接支援対策事業に係る交付	・銘柄産地促進補助金相談者:2名 ・6次産業化支援事業相談者:1名 ・天敵昆虫事業申請者:2者 ・有機農業事業相談者:1団体	○
	活動	・市が主食米以外を作付けする農業者に対して補助を行う	水田農業構造改革対策事業補助金制度の継続	・水田農業構造改革対策事業補助金制度に係る相談者:38名	○
	産出	・水田の耕作が増加し、営農計画書の提出が増える。	水田農業構造改革対策事業補助金制度及び経営所得安定対策直接支払推進事業補助金制度に係る相談業務	・水田農業構造改革対策事業補助金制度に係る営農計画書提出者:1,006名（補助申請者41名）	○
	活動	・市が農地中間管理機構を活用した利用権設定を推進する	利用権設定に対する中間管理機構活用推進 二者間(貸手/借手)の利用権設定者で契約期間満了者への案内通知	利用権設定相談者に対する中間管理機構活用(貸手/中間/借手)誘導 4月～9月の案内通知送付数:119筆	○
	産出	・農地貸付希望者から農地中間管理機構への農地貸付が増加する	二者間の利用権設定者で契約期間満了者の中間管理機構活用への移行	R7の中間管理機構活用への移行数:47筆8ha (2,160筆304.7ha)	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

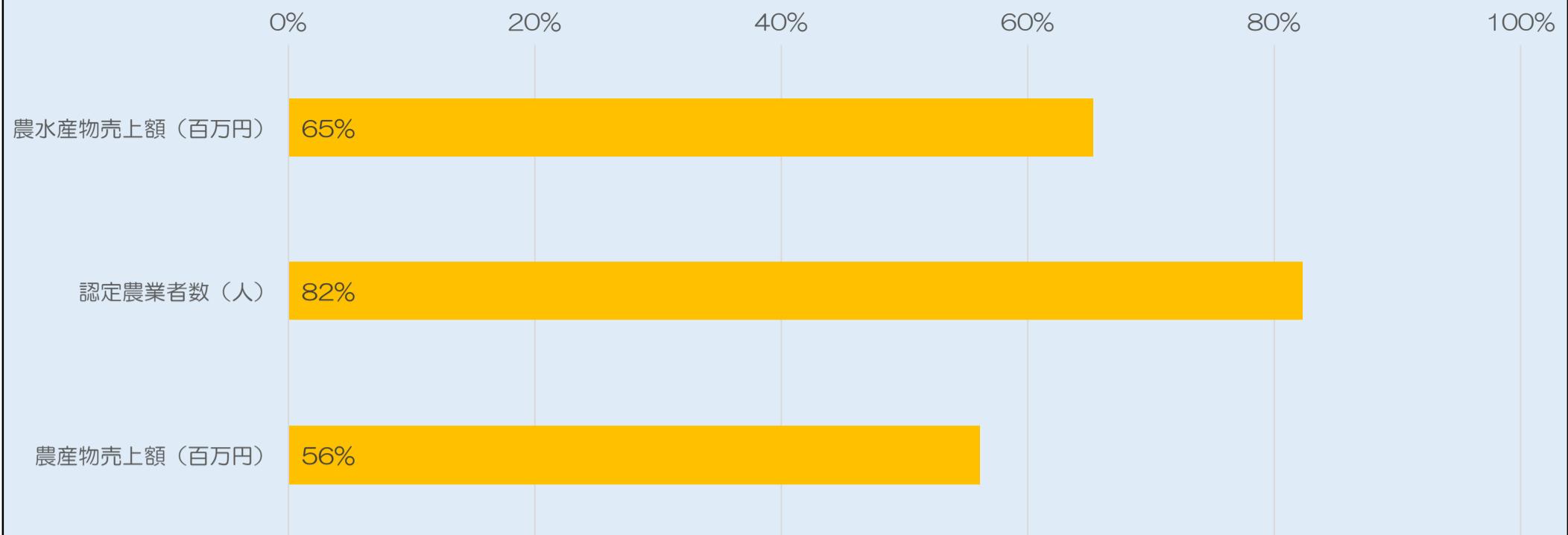
活動または產出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市への認定農業者・認定相談者が増加	認定更新者及び相談者の減少	少子高齢化による新たな担い手不足及び支援制度の情報発信不足	農家へ認定農業者支援制度をPRする

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 農水産物売上額（百万円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	2,400	1,567	65%
② 認定農業者数（人）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	141	116	82%
③ 農産物売上額（百万円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	1,450	813	56%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ①水産物（しらす、タコ、はまぐり）の販売が好調なことから、R7d_上期において、R6年度_上期と比較すると増の見込みとなっている（※R7d_上期の水産物売上高は、4月から8月までの集計：9月分は計上していない）。
- ②農産物についてはR7d_上期において、R6年度_上期と比較すると減（ピーマン・メロン・レンコン）の見込みとなっている（※R7d_上期の農産物売上高は、4月から8月までの集計：9月分は計上していないため）。
- ③新規認定者以上に農業者の高齢化・少子化による担い手不足等により、認定農業者が減少している（R6d末：118人⇒R7d_上期：116人）。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
③農産物売上額について、現在のところ概ね予定どおりに進捗しており、ロジックに基づき目標達成に至るよう事業内容を注視していく	特になし	次年度以降	新たに創設された「儲かる产地」・「枝ものトップランナー」等の国庫補助事業を活用し、農産物売上額の目標達成を図っていく

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	17	担当課 道路建設課 施設管理課	事業名 幹線道路整備事業 交通安全対策特別交付金事業 道路維持補修費	
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (4) 日常のリスクに備えるまちづくり 取組① 交通安全対策の充実	市長政策	-	

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動 (O157号線) 市が補助事業の対象となるよう、県と調整を行う	(R5事業)			
	産出 (O157号線) 協議路線が補助採択を受ける	(R5採択済み)			
	活動 (O157号線) 市が地元説明会の周知・開催を行う	全関係者への境界確認依頼	R6年度実施済み	○	
	産出 (O157号線) 地元住民が事業を理解し、事業への協力が得られる	全関係者の境界確認承諾	4件の未承諾（反対2、住所不定2）	×	
	活動 (O151号線、O157号線) 市が用地測量業務・詳細設計、用地買収（物件補償）及び工事を実施する	・O151号線の工事発注 ・O157号線の用地測量及び設計の発注	O157号線物件補償費算出（発注済）	×	
	産出 (O151号線、O157号線) 対象路線の事業が進捗する	・武井地区(O151号線)：工事130m ・荒野地区(O157号線)：境界立会184件	荒野地区(O157号線)：用地買収13/70件	×	
	活動 地区および市民要望、関係機関との協議等の実施	要望内容の整理、対応	要望：690件（うち交通安全施設77件）	○	
	産出 要望、協議等に基づき、緊急性、優先度を考慮し、順次対応を図る。	道路・側溝等所管施設の修繕、整備	5ブロック対応維持補修工事及び維持工事：39件発注	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
(O157号線) 産出の「地元住民が事業を理解し、事業への協力が得られる」	4件の未承諾（反対2、住所不定2）	反対者は住んでいる家や駐車場が買収対象であるため。	反対者に対しては、今後、具体的な補償額を提示しながら粘り強く交渉を進める。住所不定者に対しては、所有者不明土地管理命令申立制度を活用し、用地の取得に努める。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	交通安全プログラムに計画されている整備延長	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	9,000	9,003	100.0%
②	道路改良率（%）	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	54.5	54.7	100.0%

半期の成果（進捗率）

0% 20% 40% 60% 80% 100%

交通安全プログラムに計画されている整備延長

100.0%

道路改良率（%）

100.0%

ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①②はともにその種類が「ストック指標／成果累積型」、方向性は「上昇・増加を目指すもの」であり、既に計画期間の目標状態には達している。ただし、交通安全対策を充実させるためには、引き続き指標の増加を目指さなければならない。
市道O151号線の整備に関しては、整備予定地の樹木伐採を先行して実施する必要性が生じたことから、その発注準備を進めている。
市道O157号線の境界立会については、物件補償額の算定を行っているところであり、今後は物件補償を伴う地権者に対し、具体的な補償額を提示しながら交渉を進めていく。所有者不明土地については、所有者不明土地管理命令申立て制度を活用し、水戸地裁麻生支部に対し申立てをする準備を進めている。
市道O157号線の用地買収に関しては、契約完了しているもののほか、抵当権解除などの事務手続きにより契約には至っていない案件もあることから、下半期にむけても契約数の上積みは期待できる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

用地取得事務に関しては、短期間で集中的に多数の地権者と交渉しなければならないことから、組織体制の強化（人員増）が必要である。
職員による直営作業や業者への委託により、可能な限りの道路維持補修を行っているが、現実として施設の経年劣化に追いついておらず、当年以降に積み残した要望・補修箇所があることから、予算の確保や組織体制の強化により解決を促進していく。交通安全プログラムに関しては、まだ解決すべき危険箇所は残っており、引き続き警察、県、市関係他課と協力して解消に努めていく。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	18	担当課 下水道課 水道課	事業名 市街化区域のインフラ整備率（下水道） 雨水排水路整備延長（荒野台地区） 配水管の更新延長
施策の位置づけ	施策5－1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (1) 最適化した土地利用・基盤づくり 取組③ 暮らしを支える上・下水道等の維持・整備	市長政策	006 生活インフラ修繕補修

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市が汚水管路の整備工事を発注する	管路の整備：712m	管路の整備：369.4m	○	
	産出 市街化区域内の汚水管路の整備延長が延伸される	管路：712m	管路：369.4m	○	
	活動 市が汚水管路・施設の修繕及び維持管理工事を発注する	破損、清掃など、隨時対応を行う。	隨時対応契約数14件	○	
	産出 市街化区域内の衛生環境が維持される	衛生環境を維持する	衛生環境が維持された	○	
	活動 市が雨水管路等の整備工事を発注する	管路整備：103m 調整池の整備	管路整備：0m 調整池の整備	○	
	産出 荒野台地区内の雨水管路の整備が進捗する	管路：103m 調整池	管路：0m 調整池	○	
	活動 市が地区や学校と工事調整を行う。	区長及び近隣住民への説明	理解を得る	○	
	産出 荒野台地区内の雨水管路の整備が進捗する	安全な施工	安全な施工	○	
	活動 市が宮中・平井地区老朽管の更新工事を発注する	老朽管更新延長 L=209m	老朽管更新延長 L=242m 発注済	○	
	産出 宮中・平井地区の老朽管が更新される	老朽管更新延長 L=209m	老朽管更新延長 L=242m 発注済	○	

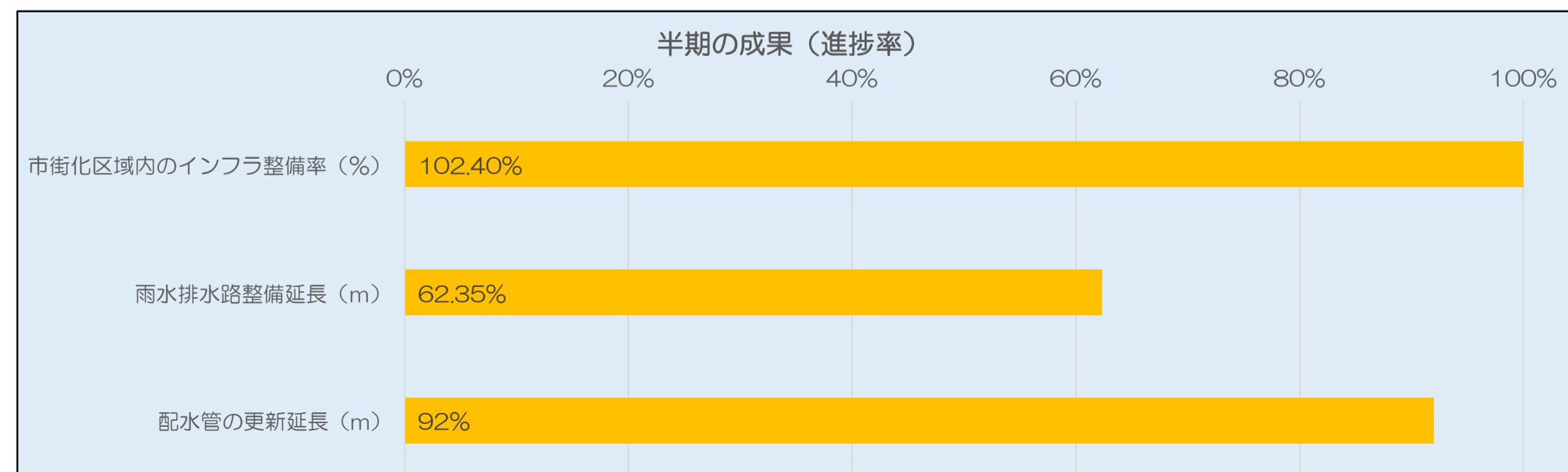
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	市街化区域内のインフラ整備率 (%)	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	91.5	93.70	102.40%
②	雨水排水路整備延長 (m)	↑	ストック指標 成果累積型	産出	1,660	1,035	62.35%
③	配水管の更新延長 (m)	↑	ストック指標 成果累積型	産出	6,010	5,541	92%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

汚水管整備については、予定通り進捗している。2件発注済みであり、インフラ率の上昇が見込める。

雨水整備についても予定通り進捗している。現在調整池第2期、3期を発注済み（繰越事業）で、雨水管についても今月発注予定である。

老朽管更新工事1件を発注済みであり、この工事が完了すると更新された水道管の総延長は5,541mとなる見込みである。目標値に対する進捗率は92%となっているが、資材費、人件費高騰の影響により事業全体の進捗としては、少し遅れている。

補助金については、今年度当初要望では交付額の減額が大きいため、県との調整によりR6年度補正予算で前倒して要望し、繰越しての事業実施となっている。次年度についても同様の要望をするよう通知がされている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

下水道事業計画の見直しが必要。（下水道区域の検討、経営戦略の見直し）

下水道事業工事費に関して、物価高騰及び国庫補助金の内示割れにより年々施工範囲が少なくなっている。

水道事業工事費に関して、物価高騰の影響により進捗に影響が出ている。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	19	担当課	幼児教育課	事業名	特別保育・保育サービス支援事業 幼保ありかた事業研究
施策の位置づけ	施策1－1 まちぐるみで子育てを応援する 施策の方向性 (1) 子供を生み育てやすい環境づくり 取組 ②総合的な子ども・子育て支援の充実	市長政策	901 幼保ありかた事業研究		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が、より高度な専門性を要する病児保育(病児対応型)について、医療機関等適切な委託先を選定する	病児保育委託施設の選定・委託契約の締結	委託先＝(医) 恵育会(病児保育室もみの木)	○
	産出	◆病児保育(病児対応型) 市が委託した医療機関等は、子どもが病気により集団保育等が困難な期間に一時的に病院等に付設された施設で預かりを行う。	市内1施設において病児保育を実施	上半期(4~9月) 利用実績＝132人(延べ)	○
	活動	・市が補助事業実施要綱を整備する ・市が施設に対し事業の周知を行う	・国県要項に基づいた市の補助要綱の制定 ・事業の概要説明(随時・施設により複数回)	施設への事業周知、意向確認、概要説明(随時)	○
	産出	◆病児保育(体調不良児型) 施設は、保育中に体調不良になった園児を、看護士を配置し、専用スペースで一時的に預かる体制を整える。	市内4施設において病児保育(体調不良児型)を実施	実施…市内4施設	○
	産出	◆延長保育…施設は、11時間を超えて、通常保育の利用時間以外に時間外保育を実施してする。	市内21施設において延長保育を実施	実施…市内21施設	○
	産出	◆一時預かり(幼稚園型) 認定こども園や幼稚園は、就労や病気などで家庭保育が一時に困難な在園児の保護者に対し、教育時間の前後や長期休業期間中の預かり保育を実施する。	私立認定こども園(6施設)、公立幼稚園(4施設)、公立認定こども園(1施設)において一時預かり(幼稚園型)を実施	実施…市内11施設	○
	産出	◆一時預かり(一般型・余裕活用型) 施設は、急病や急用等家庭保育が一時に困難になった未就園児の保護者に対し一時的に預かりを行う。	市内私立21施設のうち実施意向を示した施設で実施	実施…市内私立16施設(公立は3施設で実施)	×
	産出	○障がい児保育事業…施設は、特別な支援を要する児童に対して配置基準以上に加配保育士を配置する。	必要とされる障がい児の受入をすべて実施(私立)	実施…市内8施設…療育加算認定施設数	○
	産出	○保育士雇用助成事業…施設は、年度途中の0・1歳児の受入に対応するため、あらかじめ保育士を確保する	市内19施設において年度中の受入体制が整い受入を実施	市内19施設 0・1歳児受入＝57人	○
	産出	○保育体制強化事業…施設は、保育士以外の保育支援者を配置する。	市内21施設のうち、保育士以外の保育支援者の配置意向があった施設で保育支援者を配置	事業実施予定 13施設で実施予定	×

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
◆一時預かり(一般型・余裕活用型) 施設は、急病や急用等家庭保育が一時に困難になった未就園児の保護者に対し一時的に預かりを行う。	市内私立21施設のうち実施意向を示した私立16施設で実施(公立は3施設で実施)	在園児の余裕枠で実施する事業となっており、各施設の種類・規模や保育士の配置状況によっては実施しない園があるため	施設から実施の意向があった場合には、ほかの施設と同様に補助を実施
○保育体制強化事業…施設は、保育士以外の保育支援者を配置する。	市内21施設のうち、保育士以外の保育支援者の配置意向があった13施設で実施予定	各施設の状況により保育支援者の配置意向のあった施設に対し補助する事業のため	保育支援者配置意向があった場合には、ほかの施設と同様に補助を実施

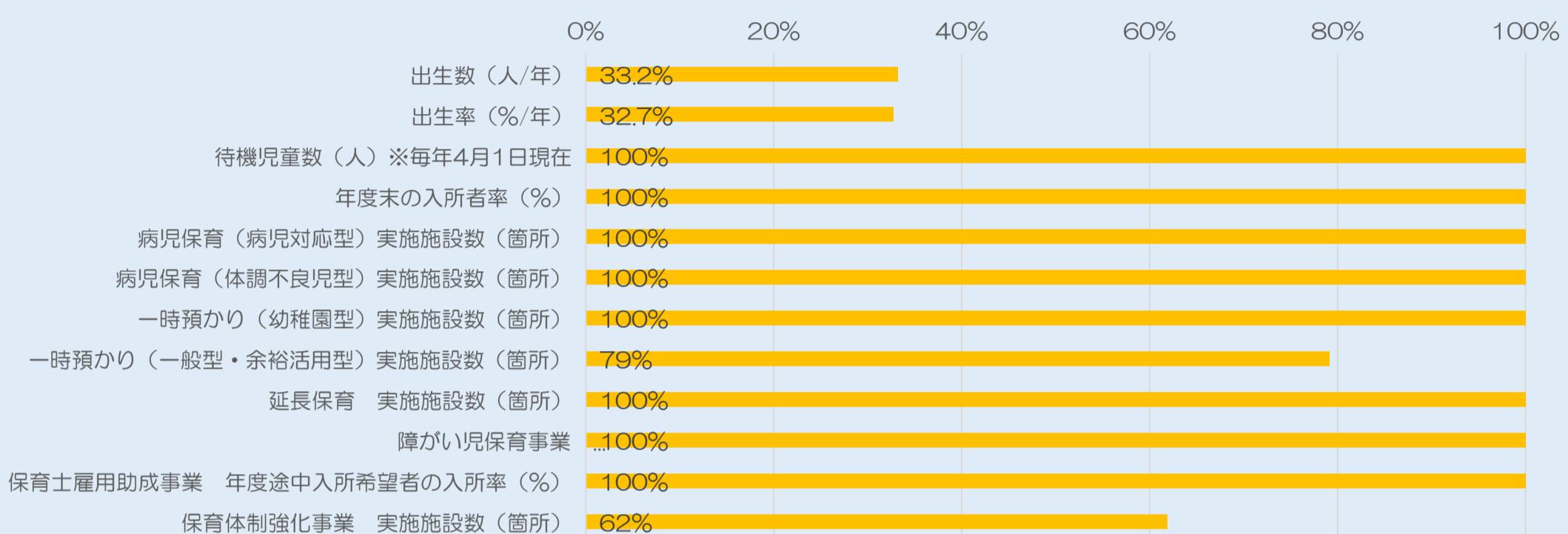
【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標(単位)	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 出生数(人/年)	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	425	141	33.2%
② 出生率(%/年)	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	6.75	2.21	32.7%
③ 待機児童数(人) ※毎年4月1日現在	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	0	0	100%
④ 年度末の入所者率(%)	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	100	100	100%
⑤ 病児保育(病児対応型) 実施施設数(箇所)	→	フロー指標 単年度増減型	産出	1箇所	1	100%

⑥	病児保育（体調不良児型）実施施設数（箇所）	→	ストック指標 成果累積型	産出	4箇所	4	100%
⑦	一時預かり（幼稚園型）実施施設数（箇所）	→	ストック指標 成果累積型	産出	11箇所	11	100%
⑧	一時預かり（一般型・余裕活用型）実施施設数（箇所）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	24箇所	19	79%
⑨	延長保育 実施施設数（箇所）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	24箇所	24	100%
⑩	障がい児保育事業 実施施設数（箇所）（療育加算認定施設数）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	8箇所	8	100%
⑪	保育士雇用助成事業 年度途中入所希望者の入所率（%）	→	フロー指標 単年度増減型	産出	100%	100	100%
⑫	保育体制強化事業 実施施設数（箇所）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	21箇所	13	62%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ①②出生数の大幅な減少による出生率の低下
 ③待機児童数…令和2年度以降、各年4月1日時点での待機児童はゼロで、令和7年度についても待機ゼロを継続
 ※4月1日時点で待機児童はないものの、空き定員に余裕があるわけではないため、年度途中の申込みの場合は、今後、年度末に向かうにつれて、特に、月齢が低い0～2歳児に関しては一時的に待機が発生する可能性がある。
 ④一時預かり（一般型・余裕活用型）実施施設数（箇所）…在園児の余裕枠で実施する事業となっており、各施設の種類・規模や保育士の配置状況によっては、預かりができない園があるため
 ⑫保育体制強化事業…保育支援者の配置意向のあった施設に対し補助する事業のため

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

工（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- ・公立幼児教育・保育施設の再編方針の見直し
 令和元年度に策定した「鹿嶋市公立幼稚園・保育施設再編方針」（計画期間：令和元年度～令和10年度）について、令和5年度末に中間見直しを実施。出生数の減少や幼稚園希望者の減少等により、さらに状況が変化したことから、今秋のに募集する令和8年度の新入園児数の状況を踏まえて、今年度に方針の再見直しを行う。
- ・宮下保育園…在園児の卒園を持って令和8年度末で閉園。公立幼稚園…令和8年度新入園児の状況により順次段階的に閉園（令和10年度までに4園→1園）。
- ・こども誰でも通園制度の試行事業…令和8年度の本格実施に向けて、令和7年7月から試行事業を開始。令和7年10月1時点での実績は、利用登録者35人、延べ利用30人（実利用11人）。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	20	担当課	幼児教育課 中央図書館・分館・学校図書館	事業名	保育園管理経費 認定こども園管理経費 幼稚園管理運営事務費 学校図書館経費（小学校） 図書館運営経費
施策の位置づけ	施策2－1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1) たくましく柔軟な子どもを育む学校教育取組 ①幼児教育と子育ての総合的な支援			市長政策	O14 乳幼児学童の絵本・図書の充実

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市がブックスタート事業を行う	産出 子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	ブックスタートキットの配布	162人にブックスタートキットを配布	○
	活動 市が絵本・児童書等図書購入事業を行う	産出 子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	定期的な新書の購入（電子図書含む）	絵本・児童書を月平均41万円分購入し、公共館・小学校図書館・電子図書館に排架	○
	活動 図書館がかみしばい等の読み聞かせを、学校図書館が読書イベントを行う	産出 子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	読み聞かせ等のイベント実施	イベントを中央館、分館で29回（定例24回、特別5回）、各学校図書館でも随時開催。	○
	産出 図書館イベントへ参加する	活動 幼稚園・保育園等が保育中に読み聞かせを実施する	読み聞かせ等のイベント実施	参加者242人	○
	活動 幼稚園・保育園等が保育中に読み聞かせを実施する	産出 子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	公立幼稚園、保育園、認定こども園での読み聞かせの実施	公立幼稚園4園、保育園2園、認定こども園1園で実施	○
	産出 子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される		毎日の保育時間に読み聞かせを実施	1日10分年間42時間	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

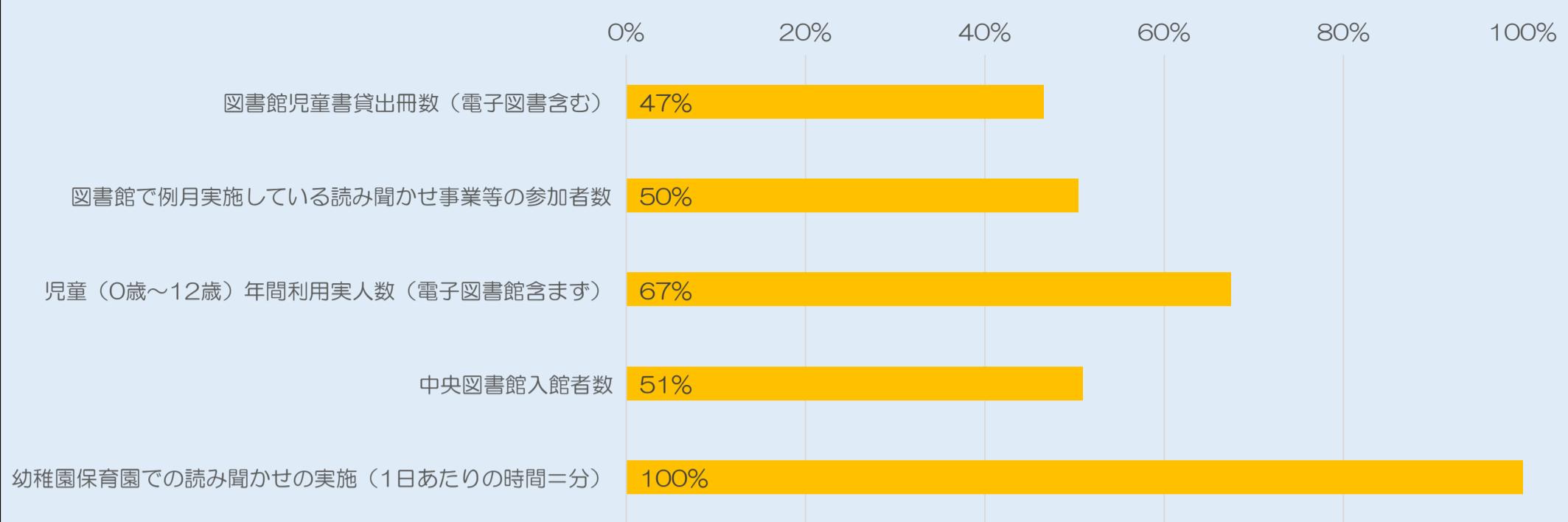
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	図書館利用実績が減少している。	子どもの人口減少による。	開館40周年記念事業として魅力的なイベントを開催する。様々な媒体を用い周知することで、未利用者の来館を促す。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	図書館児童書貸出冊数（電子図書含む）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	90,000	41,963	47%
②	図書館で例月実施している読み聞かせ事業等の参加者数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	480	242	50%
③	児童（0歳～12歳）年間利用実人数（電子図書館含まず）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	1,260	850	67%
④	中央図書館入館者数	→	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100,000	50,954	51%
⑤	幼稚園保育園での読み聞かせの実施（1日あたりの時間三分）	→	フロー指標 単年度増減型	活動	10	10	100%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

図書館利用実績は減少しているが、児童書や絵本を購入し、利用者に魅力的で楽しい本を提供できており、概ね事業全体として予定どおり進捗している。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	21	担当課	教育指導課	事業名	国語・算数指導事業経費 教職員指導対策費
施策の位置づけ	施策2-1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1) たくましく柔軟な子どもを育む学校教育取組 (2) 学び高めあう学校教育の推進	市長政策	O15 国語・算数の学習支援		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 教員は学習指導力向上を図る研修などに参加する。	授業改善PJの実施 情報教育研修会の実施	国語PJ実施：3回 算数PJ実施：3回 情報教育研修会：5回	○	
	産出 教員の指導力が向上する。	授業研究や事例研究などを積極的に行う。	授業公開実施日数：215回	○	
	活動 学校は児童生徒へ読書に親しむ活動を確保する。	学校図書司書の配置	学校図書館司書配置校：17校（うち兼務5校）	○	
	産出 児童生徒は学校や自宅で読書を行う。	児童生徒の読書活動の推進	年間50冊以上読書をした小4～小6の児童の割合。年1回の調査	○	
	活動 算数（数学）の習熟度別学習を実施する。	習熟度別授業の実施	各校・各クラスの児童生徒の実態に応じて、授業内における習熟度別学習や家庭等での補充学習を行っている。	○	
	産出 児童生徒は習熟度に分かれて授業を受ける。	習熟度別授業の実施	児童生徒は習熟度に応じた学習を行っている。	○	
	活動 新聞記事を基にした教材（よむYOMUワークシート）を導入する。	小学4年から中学3年まで全児童生徒に導よむYOMUワークシートを導入する。	小学4年から中学3年まで導入済	○	
	産出 児童生徒は学校の朝学習等でワークシートを読み、設問を解く。	小学4年から中学3年までの児童生徒の朝学習等で活用する。	朝学習等で活用している。	○	
	活動 学校は児童生徒の学習を支援するICTドリルソフトNavimaを導入する	Navimaを導入する。	小学1年から中学3年までを対象に導入した。	○	
	産出 教員のICTドリルソフトNavimaの活用が促進される	Navimaを導入する。	小学1年から中学3年まで児童生徒の授業、自己学習などで活用している。	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

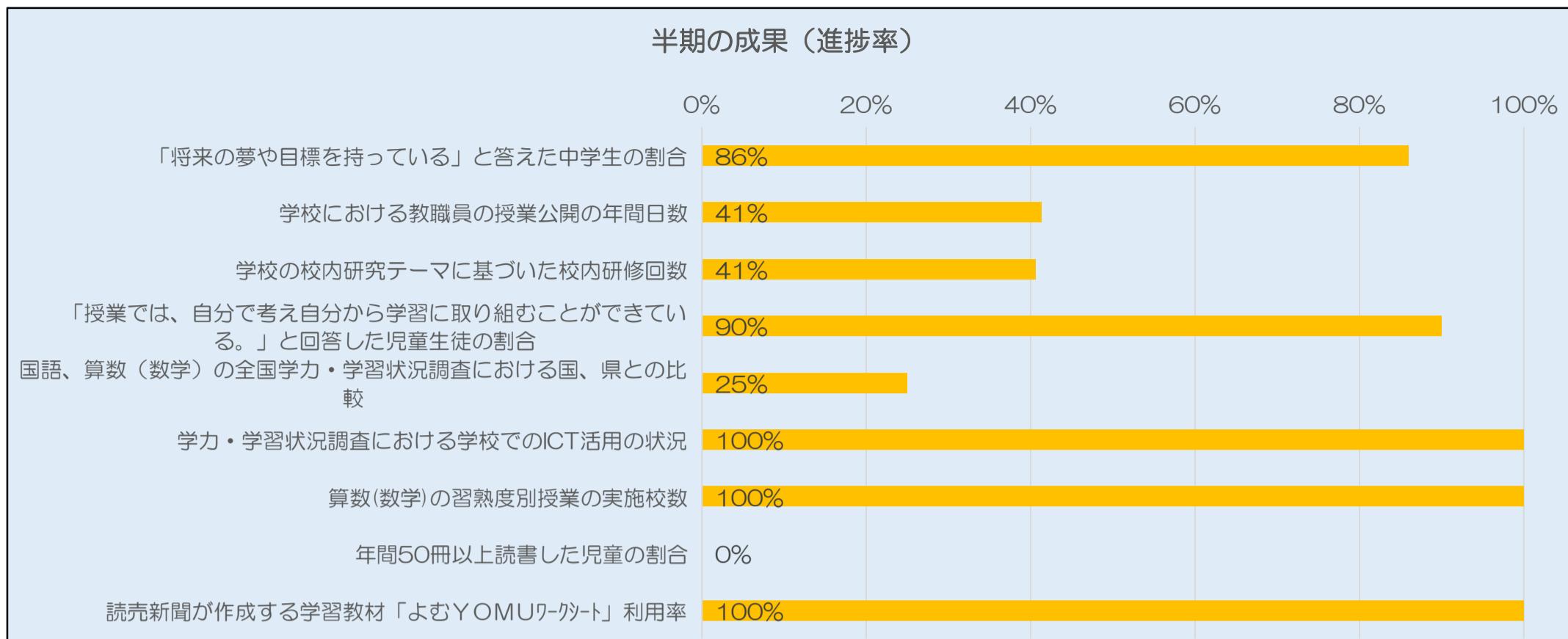
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	「将来の夢や目標を持っている」と答えた中学生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80%	68.7%	86%
②	学校における教職員の授業公開の年間日数	→	フロー指標 単年度増減型	活動	520回	215回	41%
③	学校の校内研究テーマに基づいた校内研修回数	→	フロー指標 単年度増減型	活動	170回	69回	41%
④	「授業では、自分で考え自分から学習に取り組むことができている。」と回答した児童生徒の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	90%	小学校83.6% 中学校78.9%	90%
⑤	国語、算数（数学）の全国学力・学習状況調査における国、県との比較	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	国県の平均超え	R7d結果小6国（国平均超）を除き国県平均以下。	25%
⑥	学力・学習状況調査における学校でのICT活用の状況	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	国の平均超え	国県平均超え	100%
⑦	算数（数学）の習熟度別授業の実施校数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	小学校：12校 中学校：5校	小学校：12校 中学校：5校	100%
⑧	年間50冊以上読書した児童の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	80%	年1回の調査	—

⑨	読売新聞が作成する学習教材「よむYOMUワーカート」利用率	→	フロー指標 単年度増減型	活動	100%	100%	100%
---	-------------------------------	---	-----------------	----	------	------	------



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

各成果指標の大半は成果達成目標年度（2026または2031年度）の目標値に向けて予定通り順調に成果実績を積み重ねているが、R7年4月に実施した⑤「国語、算数（数学）の全国学力・学習状況調査における国、県との比較」については、小6国語を除き国・県平均以下となっている。全国学力・学習状況調査や県学力診断テストの結果を市全体、各校において分析し、その結果を授業に反映させるとともに、授業改善プロジェクトによる授業改善のための取り組みを進めているが、結果に結びついていない。現場においては、中堅職員の離職等もあり、若手職員が増えており、授業改善に日常的に取り組んでいくためのOJTの機会が減少しており、指導力、学級経営力の向上が急務である。

また、学校内において市の目指す目標が十分に浸透しておらず、目標達成に向けた現状把握が不十分であるため、教員が改善に向けた危機感や必要性を十分に持ちにくい状況になっている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
【成果指標】教職員の意識改革につなげる 教員一人一人が市の目標に意識を向けるため、目標値を教育現場に落とし込む際にはより明確な目標値を設定する。 県学力診断テスト（県学診）：教員が取り組んだ成果 全国学力・学習状況調査（学調）：前年の教員が取り組んだ成果。また、比較方法が国・県平均との比較であると、学校に落とし込むときに、目標値が明確ではない。	ロジックモデルの修正はしない その教員が1年取り組んだ成果として見るためには、県学診が最適である。学調は実施時期が4月であることから、自身の指導成果ではないことなど（ともすればこの子たちだからという評価をしてしまう）から、学校への目標値としてはまず県学診の正答率を上げていくことを目標値とし、その結果としてさらに学調の成果に結びつけていくというロジックにする。	今年度中	【正答率：県学診70%/国学調60%】を市の目標値として設定し、教員一人一人が自身の現在地を確認しながら学力向上への意識を高めることを目指す。また、県学診や学調の分析結果をこれまで以上に指導に活用する意識付けを図る。
【活動：習熟度・補充学習の取り組みの充実】 国語、算数・数学における学力調査の結果が、全国および県の平均を下回っている現状を踏まえ、特に学力下位層の児童・生徒に対して、学習意欲の向上を図るとともに、授業内容の学び残しを的確に把握・解消し、基礎学力の定着を図ることで、市全体の学力向上につなげる。	ロジックモデルの修正なし 下位層のボトムアップを図ることは、市全体の学力向上（成果指標）に確実につながる。補充授業や習熟度別学習の取り組みを充実させ、第1四分位に相当する児童性の割合を減少させていく。	次年度以降	(評価指標) 四分位層の経年変化については今年度中に整理。学力の向上に関する評価指標について、学調（国語・算数・数学）における国第1四分位（下位層）に相当する市の児童生徒の割合の経年変化を見る（減少させる）。 (活動) 補充授業や習熟度別学習の実施のほか、学力下位層が意欲を持って学習に取り組めるための手立てを検討する。
【活動：教員のスキルアップ研修】 授業力の向上と児童生徒が主体的に学ぶ力を育成するためのアウトリーチ研修を行う。	ロジックモデルの修正なし	次年度以降	教育会とタイアップした教科指導研修や指導主事による授業改善を目的としたアウトリーチ研修を年間計画に加える。
【中間成果：生きる力を育むための3つの柱（細分）※4月面談時指摘事項】 学習指導要領においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の3つの柱（資質・能力）の育成がバランスよく実現することにより、生きる力（①確かな学力②豊かな心③健やかな体）を育むとされており、4月面談時の指摘事項を受けて、生きる力を細分化し整理する。	生きる力を育むためのロジックを学習指導要領に基づく3つの資質・能力の育成に細分化する。 主体的・対話的で深い学びを通じ、3つの資質・能力がバランスよく実現することにより、変化が激しく、不確実性や複雑性、曖昧さを伴う現代社会（VUCA時代）を生き抜く力を育成するというロジックに整理する。	今年度中	主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を研修・授業研究を通じて習得し、それらを実践し、生きる力の育成を図っていく。

才 その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

学力の向上につながらない理由のひとつとして、（中堅教諭の離職→校内OJTの機会が減少→）若手教員の指導力・学級経営力（学力以前に児童に落ち着きがないなど、学習に向かわせるための体制ができていないなど）にバラつきが見られ、十分な生徒の学びにつながっていない。そのため、次年度については指導主事によるアウトリーチ研修に取り組む。（若手教員のメンターとして、30代～40代の教員アドバイザーを配置し、若手教員が安心して教育に取り組めるよう、伴走型の指導支援を行う30代～40代の教員アドバイザーを配置できないか（中学校区毎に授業力改善リーダーを選任、あるいは1名割り愛採用：2年間任期で教育センターにアドバイザーとして配置など）。

指導主事については、配置基準に基づき配置されており、人数の増加は見込めず、現状として生徒指導や保護者対応、議会対応などに多くの時間をとられている。

経験の浅い臨時の任用職員（常勤講師等）を代替配置する際、正規職員に比べ研修機会が十分ではないことから、教育センターと連携し、現場研修等を通じて研修機会の確保に努める。

学力下位層の学習意欲を高め、「学び残し」を解消しながら学力を向上させることは、学力診断テスト等の結果に大きな影響を与える。そのため、基本となる授業づくりの研修の充実を図るとともに、補充学習や習熟度別学習の取り組みが効果的に進むよう指導・助言を行う。

小学校において、学校内において「教科担任制」や「教材研究の分担制」など柔軟に対応できるよう必要に応じ指導・助言を行う。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	22	担当課 社会教育課 教育指導課 中央図書館・大野分館	事業名 文化事業 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団支援事業 教職員指導対策費 生涯学習推進事業 文化財保護経費 図書館運営経費 学校図書館経費（小・中学校）
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性 (1) シビックプライドを育てる「郷育」 取組 ①郷土理解教育の促進	市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 教育委員会が子どもたちを中心に郷土かるたの普及・啓発を行うため体験事業を実施する。	産出 市内の子ども達が郷土かるたを行う機会が増える	社会教育課窓口やイベント等での販売、体験教室の開催	窓口販売：2件 鹿嶋まつりや児童クラブ説明会で体験会及び販売を予定	○
	活動 教育委員会が市内中学生にいばらきっ子郷土検定の啓発を図る	産出 市内中学生がいばらきっ子郷土検定へ参加する	各中学校での大会開催及び啓発活動	過去問題の配布及び郷土ドリルの活用周知	○
	活動 教育委員会が市民対象に伝統文化親子体験事業を実施する	産出 市内の子ども達が各種体験事業へ参加する	伝統文化親子体験事業の実施	茶道10回(8~9月) 和紙絵4回(8月) 将棋教室3回(8月) 祭囃子3回(7~11月) 華道6回(9~1月) 和飾り3回(10月) 11月(てーら祭)で鹿島大助人形制作教室2回開催予定	○
	活動 文化スポーツ事業団がまんが鹿島の歴史制作事業を実施する	産出 市民がまんが鹿島の歴史を読む	茶道, 和紙絵, 祭囃子, 華道, 和飾り, 鹿島大助人形制作の6教室(637人参加)を実施	茶道5回(8月~9月)実施済 和紙絵2回(8月)実施済 将棋教室3回(8月)実施済 祭囃子3回(7月~11月)2回実施済 華道6回(9月~1月)3回実施済 和飾り3回(10月)1回実施済 11月(てーら祭)で鹿島大助人形制作教室2回開催予定	○
	活動 文化スポーツ事業団がまんが鹿島の歴史制作事業を実施する	産出 市民がまんが鹿島の歴史を読む	まんが鹿島の歴史第6巻の制作	事業団に対して文化事業補助金を交付。	○
	活動 文化スポーツ事業団が歴史文化事業を実施する	産出 市民が歴史文化事業(展示, 講演会)に参加する	各種イベントの実施	R7.10.1現在の販売冊数 3,478冊(第1巻1,352冊, 第2巻933冊, 第3巻731冊, 第4巻291冊, 第5巻171冊)	○
	活動 文化スポーツ事業団が市民にデジタルコンテンツを用いた文化財普及事業を実施する	企画展の紹介動画の作成・配信	○古墳に眠っていた宝物(再生600回) ②どきどきセンターってどんなところ(再生434回) ③平安時代の鹿島(再生291回) ④大助人形って何?(再生134回)	○	

産出	市民が文化財普及事業へ参加する	ココシカ企画展 勤文企画展・歴史講演会 勤文マルシェ どきどきセンター企画展 商工会フェス 土器掘り体験ほか	6月 ココシカ企画展「縄文時代の豊かな鹿島」 7月 勤文企画展「近世の鹿島」・歴史講演会「江戸時代の村運営と村人たち」 126人ほかオンライン 7月 勤文マルシェ87人 8月 どきどきセンター企画展「近世の鹿島」192人 8月 商工会夏イベント「探し遺物総選挙」 8月・9月 勤文、中央公民館展示「戦後80年 鹿島の戦争遺跡」 8月 土器掘り体験（5回）68人 9月 三笠公民館 勾玉づくり 36人	○
活動	市内小学校が社会科副読本を積極的に活用する	市デジタル社会科副読本を活用した授業の実施	市内小学校12校実施	○
活動	市内小中学校が郷土資料・図書を活用した授業を充実させる	郷土資料を活用した授業の実施	市内小中学校17校実施	○
産出	市内小中学生が郷土教育を学ぶ	郷土教育に関する授業の実施	市内小中学校17校実施	○
活動	教育委員会が市内各小中学校へコミュニティスクールを推進する	市内全小中学校にて学校運営協議会（年4回程度）を実施する。	第2回の学校運営協議会が全校で終了。※第2回は全中学校区での合同協議会の開催。	○
産出	地域の方々が市内小中学校に行く機会が増える	学校運営協議会による行事参加や学校支援ボランティアによる活動	学校運営協議会委員による登下校時の見守り活動や美化活動などの学校行事に参加する機会が増えている。学校支援ボランティアも各校において、有効に活用されている。	○
活動	図書館・学校図書館での郷土資料を充実させる	郷土資料の購入、寄贈	郷土資料の購入、寄贈170冊	○
産出	市内小中学生の郷土歴史・文化に触れる機会が創出される	図書館の郷土資料貸出	集計中	×
活動	図書館・学校図書館での郷土図書のPR、コーナーや展示を充実させる	郷土資料のPR、コーナー充実	郷土歴史・文化を楽しみながら学べる郷土クイズを作成。10月から実施。	○
産出	市内小中学生の郷土歴史・文化に触れる機会が創出される	図書館の郷土資料貸出	集計中	×
活動	図書館が郷土歴史に関する教室等のイベントを開催する	歴史教室2回実施	歴史教室1回実施	○
産出	市内小中学生が市の歴史教室等イベントへ参加する	歴史教室等イベントに参加	参加者18人	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
図書館が郷土歴史に関する教室等のイベントを開催する	歴史講座のテーマは遺跡に関するものが多いが、参加者アンケートでは鹿島神宮に関するテーマの希望が多くかった。	歴史講座は、どきどきセンターが製作した『マンガかしまの歴史』の解説講座としているため。	解説講座に加え、要望の多かったテーマを題材にした講座も開催していきたい。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 郡土図書の貸出冊数	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	1,300	集計中	-
② 歴史教室等イベント参加者数	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	40	18	45%
③ 「鹿嶋市を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	70	1月実施予定	-

半期の成果（進捗率）

0% 20% 40% 60% 80% 100%

郷土図書の貸出冊数 0%

歴史教室等イベント参加者数 45%

「鹿嶋市を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合 0%

ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- いばらきっ子郷土検定や伝統文化教室の開催並びにまんが鹿島の歴史の発行は、順調に進められている。まんがの発行については、継続的に文化スポーツ振興事業団への支援が必要と考えられる。（社会教育）
- 郷土資料を受け入れ、貸出冊数も目標値を大きく上回っていることから事業全体として予定どおり進捗している。（図書館）

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- 本市の郷土の文化の向上については、文化スポーツ振興事業団との連携は欠かせないため、継続的に支援（補助金等）していく必要がある。（社会）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	23	担当課	総務就学課 教育指導課	事業名	中学校教育振興支援事業 英語指導事業経費
施策の位置づけ	施策2－1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1) たくましく柔軟な子どもを育む学校教育取組 ③生きる力を育む教育の推進	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 中学校はキャリア教育を推進する。	事業者などと連携したキャリア教育の実施	事業者などと連携したキャリア教育の実施回数：確認中	○	
	産出 生徒は民間事業者等の多様な職種の人との交流の機会を得る。	事業者などと連携したキャリア教育の実施	事業者などと連携したキャリア教育の実施回数：確認中	○	
	活動 教育委員会は、児童向けにイングリッシュラウンジの実施や留学生などと交流する機会を設ける。	イングリッシュラウンジ、イングリッシュアーバンキャンプ、留学生交流事業の実施	英語力向上スーパーバイザーの指導のもとALTと協力し、イングリッシュラウンジ、アーバンキャンプの準備を行った。/鹿島学園留学生交流事業の実施に向けた鹿島学園、各校との連絡調整	○	
	産出 児童生徒は英語を母国語とする外国籍の方と触れ合うことで、多様な英語学習の機会を得る。	イングリッシュラウンジ、イングリッシュアーバンキャンプ、留学生交流事業の実施	ラウンジ（3/8回：小5・6対象）/ラウンジ・ジュニア（3回：小3・4対象）/ラウンジ・ビギナー実施（1回：小1・2対象）(R7拡大)/ラウンジ・シニア実施（3回：中学生）(R7拡大)/アーバンキャンプ①小5・6対象（12月）②中1～3対象（R7拡大）/留学生交流事業：全中学校で実施（全学年では未実施）	○	
	活動 教育委員会は生徒の英語能力を測る4技能テストを実施する。	英検IBAの実施	10月～11月にかけて実施する。	○	
	産出 児童生徒は、多様な英語学習の機会を得る（英語学習の習熟度を把握し、様々な学習の機会に生かしていく。）	英検IBAの実施し、自身の英語力を客観的に把握する	中3の英検3級相当の生徒の割合 55.4% (R6d結果)	○	
	活動 教育委員会は、ALTや英語能力向上スーパーバイザーを配置する。	ALT、英語能力向上SVを配置	全ての学校にALTを配置	○	
	産出 児童生徒は多様な英語学習の機会を得る。	ALT、英語能力向上SVを配置	全ての学校にALTを配置	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

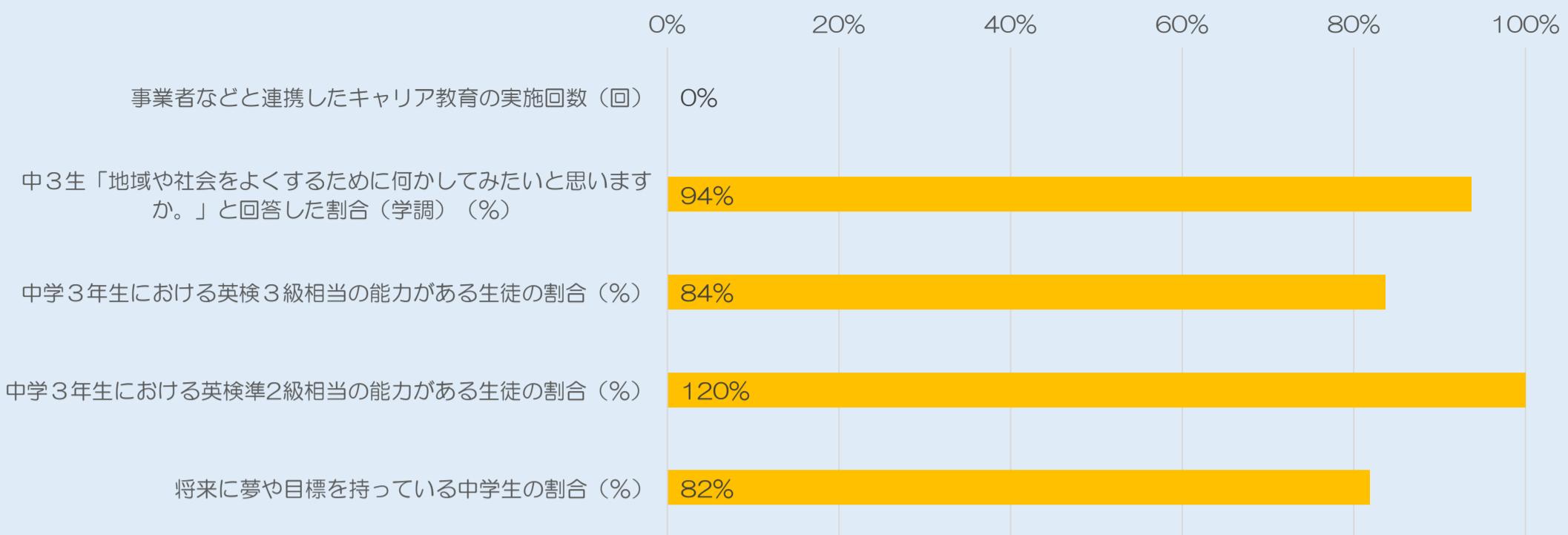
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	事業者などと連携したキャリア教育の実施回数（回）	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	70	-	-
②	中3生「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」と回答した割合（学調）（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80	75	94%
③	中学3年生における英検3級相当の能力がある生徒の割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	65	54.4	84%
④	中学3年生における英検準2級相当の能力がある生徒の割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	5	6	120%
⑤	将来に夢や目標を持っている中学生の割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80	65.5	82%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

本市における英検3級相当の生徒の割合は、茨城県が設定する目標値である50%を5.4%上回っているものの、近年は横ばいの状況が続いている（※県の目標を達成していることを踏まえ、近年の結果から本市ではより高い水準を目指し、65%を目標値として設定している。）。

英検3級相当の能力がある生徒の割合については、学校間によってばらつきが見られる。他校と比較し例年高い傾向にある高松中学校では、他校より週1時間多い週5時間の授業時間を確保しその時間をコミュニケーション英語授業に充てており、かつ、全学年が同じ教員による指導となっていることから、3年間の指導の積み重ね、方向性が変わらずにできるなどの成果が表れていることが推察される。他校においても、スーパーバイザーや指導主事による授業指導を行い、CBT(Computer Based Testing)の活用、ALTの活用、市英語教育ガイドラインで示す取り組みを実践し授業改善に取り組んでいる教員は徐々にではあるが生徒に変化が見られており、その成果について下期の4技能テスト、学力診断テストの結果において確認する。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
【活動：教員のスキルアップ研修】 本市では英語力SV作成のCBT教材を全学年全ユニットで作成しているが活用に差があることから、今夏英語教諭全員研修で具体的な活用方法について指示を出したところ。更なる活用の推進を図る。	※ロジックの修正なし	今年度中	CBTの活用状況を市で把握し、指導助言を行っていく。
【活動：教員のスキルアップ研修】 特に中学校においてALTの活用やスマートトークの取り組みに差があることから、今夏英語教諭全員研修で具体的な活用方法について指示を出したところ。更なる活用の推進を図る。	※ロジックの修正なし	今年度中	指導主事・英語カースーパーバイザーによる授業評価の機会を更に充実させる。その際に教務主任、英語主任等にも参加いただき、学校内での自主的な取り組みが進むよう指導・助言する。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

●国の教員の指導力向上のための研究事業では、スピーキング力は、その他の3技能（リスニング、リーディング、ライティング）の習得に大きな影響を与えることが指摘されており、英語能力全体を底上げする核となる技能である。さらに生徒の英語力向上には、①教師による授業での英語使用の増加②授業における生徒の英語による言語活動の充実③教員の英語力の3つの要因が強く影響していることが指摘されている。市授業改善プロジェクトにおいては、指導場面における第二言語習得（I S L A）の視点を取り入れ指導力の向上を図るとともに、教員自身の英語力の向上を図り、児童生徒の英語力の向上につなげていく。

»»教員の英語力の向上及びスピーキング授業の充実を図るため、教員のオンライン英会話事業を検討する。

●英検3級程度（CEFR A1相当）の英語力は、基本的な英語を理解し、日常的なコミュニケーションに活用できるレベルである。特に英検3級試験では、筆記試験に加え、面接形式のスピーキングテスト（二次試験）が課されており、実際に英語を話す力が求められることから、スピーキング力の育成が極めて重要となっている。このため、スピーキングを通じ、生徒が授業で学んだ知識（インプット）を実際に活用し定着させるアウトプットの機会を確保する。

»»児童生徒の実践的なアウトプットの機会として、ネイティブとの直接的なコミュニケーションを図る児童のオンライン英会話事業等の導入を検討する。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	24	担当課	社会教育課	事業名	文化財保護経費
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性 (1) シビックプライドを育てる「郷育」 取組 ②郷土の歴史・文化の保全と継承	市長政策	O17 歴史探究とデジタルアーカイブ		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動 市職員が史跡の維持管理を行う	史跡の草刈り委託	委託契約をし、維持管理を行っている。 比屋久内遺跡：1回 林城跡：2回 ハマナス自生南限地帯：1回 郡家跡：3回 浅間塚：0回	○	
	活動 ミニ博物館の管理運営を委託する	NPO法人かしま歴標に管理運営を委託	年間の契約を締結し、管理運営を行っている。	○	
	活動 文化財保護審議会が文化財を指定する	未指定文化財の審議	令和7年度未指定文化財の審議は行っていない。現時点では1月～2月に実施予定。	×	
	活動 市民及び市職員が既存の文化財を適正に管理する	史跡の草刈り委託	市民団体が比屋久内遺跡、林城跡、夫婦塚古墳の除草を、行政がハマナス自生南限地帯、郡家跡、浅間塚の除草を業者に委託した。	○	
	活動 市内の文化財が増える	未指定文化財の審議	現時点では令和7年度の指定の予定はないが、市内遺跡試掘調査を随時実施。また令和4年から県の委託事業として行っている豊郷台地の発掘調査においては、旧郡家跡の比定地でもあり指定対象となりうる文化財が出た場合は審議を行い、保護に努める。	×	
	活動 文化財専門検討委員会が文化財の状況に応じた保存（実物・デジタル）の要否及び適否の判断および保存方法を示す	文化財の保存の判断、保存方法の決定	検討委員会で決定した保存基準を基に判断する。	○	
	活動 文化財検討委員会が市内文化財を総合的に把握する	市内文化財の把握	検討委員会で決定した保存基準により、データ化された市内文化財を把握した。	○	
	産出 どきどきセンターやミニ博物館等で文化財の展示や周知がされる	指定文化財を展示	両施設の常設展示だけでなく、勤文や商工会会館等でのイベントに併せて文化財の展示や体験教室を行った。	○	
	活動 市が古文書講座を開催する	講座の開催	市職員による古文書講座を開催し、全12回中10回が終了した。	○	
活動 市民が古文書講座に参加する。	古文書知識の習得	全12回中、10回が終了（平均14人参加）	○		
産出 文化財保存の意義が周知される	古文書に関する知識の習得	古文書講座を通じて、古文書に関する知識の習得を図った。古文書に関心を深めることで、自宅などにある古い文書などにも興味が生じ、保存への理解にもつながる。	○		

活動	市職員が文化財に関連する研修に参加する	専門知識の習得	職員（2人）が、全史協関東地区協議会に参加し、国史跡の整備及び活用方法等を学んだ。	○
活動	市職員がデジタルアーカイブに必要な機器を調達する	機器の購入	撮影に必要な物品を購入した。	○
活動	市職員がデジタル化保存技術の研究を行う	研修会等への参加	国の研修会は募集枠が少ないため、他自治体や民間が行う研修等（オンライン含む）への参加を検討中。	○
活動	市職員が文化財に関連する新たな知識や技術（デジタル化保存技術を含む）を習得する	デジタル保存技術の習得	購入した機材（カメラ、PC等）による撮影を行いながら技術を習得する。	○
産出	デジタル化等記録により保存と保存記録のデータベース化が図られる	デジタルデータ化への推進	保存基準等によるデジタルデータ化に向けた入力作業と並行して購入した機器による撮影を開始した。	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	どきどきセンター及びミニ博物館の来訪者数	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	10,000	5,116	51%
②	市有文化財のデジタルアーカイブ化による公開・展示件数	↑	ストック指標 成果累積型	産出	3	0	0%

半期の成果（進捗率）

0% 20% 40% 60% 80% 100%

どきどきセンター及びミニ博物館の来訪者数 51%

市有文化財のデジタルアーカイブ化による公開・展示件数 0%

ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- 既存文化財（指定史跡）の維持管理については、特に問題なく管理されている。
- 指定文化財以外の適正な保存管理についても、検討委員会で協議され、具体的な提案もされた。
- 令和7年度から新たに古文書講座を開設することにより、これまで以上に市民等が文化財に触れる機会が創出できた。
- デジタル化の研究については、研修等に積極的に参加していきたい。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- デジタルアーカイブ化による公開・展示については、技術の習得と並行してより精度を上げるための機材の拡充（数年に一度程度）が必要となってくる。
- 文化財関係については、専門的職員の定期的な増員を行い、組織体制の強化を図ることが必要と考えられる。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	25	担当課	スポーツ推進課	事業名	社会体育振興事業
施策の位置づけ	施策3－1 スポーツに親しみ健康を維持する 施策の方向性 (1) スポーツ活動・交流の推進 取組 ①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	市長政策	-		

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市が多世代の市民へのスポーツに親しむ機会を提供する	市民参加型スポーツイベントの実施（奇数月1回）	5月・7月・9月（3回）	○	
	産出 スポーツイベント参加者が増え、多世代の市民が身体を動かすきっかけとなる	参加者減少 月平均350人	月平均250人	○	
	活動 市がスポーツ実践者や団体の支援をする	・スポーツ振興事業補助金 ・全国大会出場報奨金	・補助金の交付 ・報奨金の交付（個人41件、団体15件）	○	
	産出 スポーツを通じた人材育成が図られる	スポーツ協会（競技部、育成部、普及部、少年団、KSC）、硬式野球協会の活動強化	・スポーツ少年団指導者協議会講演会	○	
	活動 市が各種スポーツ大会を開催・誘致する	サッカーフェスティバル、フットサル大会、剣道・柔道大会（ト伝杯）、ゴルフ大会、駅伝大会、地区対抗球技大会・民間企業と連携したイベントの開催	サッカーフェスティバル、剣道・柔道大会（ト伝杯）、ゴルフ大会	○	
	産出 参加した市内のスポーツ実践者・チームの競技力が向上する 交流人口が増加する	県内外チームを各種大会に招致する	サッカーにおいて市内の中学校及び鹿島学園やアントラーズJrが好成績を残す。 サッカーフェスティバル県外参加高校87.5%海外参加チーム1チーム、ト伝杯剣道市外チーム83.5%，柔道市外チーム81.4%	○	
	活動 市が主体となりパラスポーツ体験会等を推進する（幼稚園、小学校、地区公民館等）	市民参加型イベントでの体験会、公立幼認可体験会、小学校1校体験会、地区公民館単位でボッチャ大会	・オリパラ推進事業が11月中旬に実施予定 ・ボッチャ大会2月実施予定	○	
	産出 参加した市民の言動がポジティブになる 参加した市民が、相互理解と尊重の重要性を認識する	体験後アンケートの実施	オリパラ推進事業が未実施であり11月中旬にアンケートを徴収予定	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

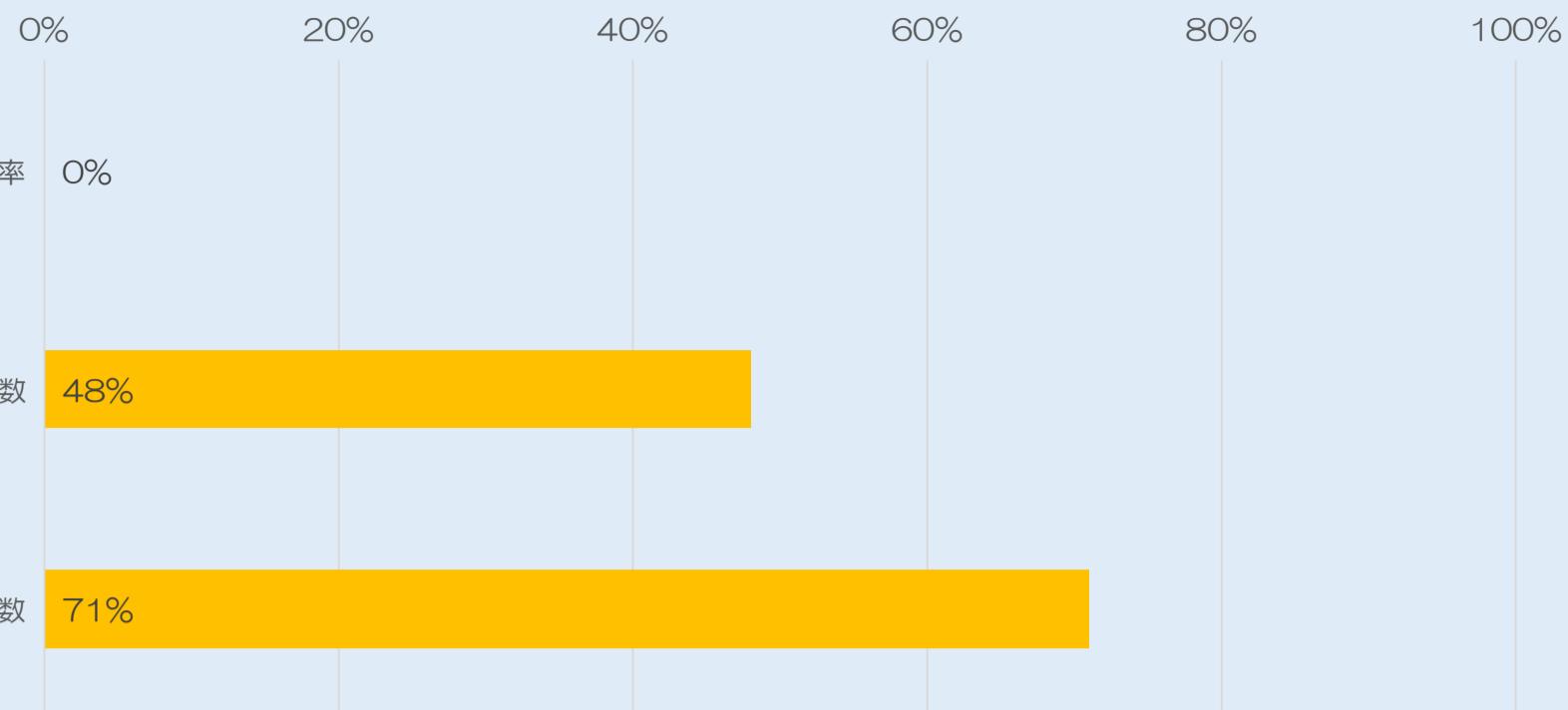
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	成人の週1回以上のスポーツ実施率	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	65%	アンケート1月実施予定	-
②	市立スポーツ施設利用者数	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	400,000人/年	192,690人/年	48%
③	みんなのスポーツフェスタ参加者平均人数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	350人/回	250人/回	71%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

みんなのスポーツフェスタ参加者平均人数は予定どおり進捗していない。今年から開催を奇数月にしたが、周知方法不足により来場者が頭打ちである。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
みんなのスポーツフェスタのプログラムの更新（新たなメインイベント参加団体の発掘）		次年度以降	住友生命相互会社を中心とした関係団体からの紹介やSNS等を利用して、新しいイベントブース出展の可能な団体の発掘に努める
みんなのスポーツフェスタの周知方法の拡大		今年度中	市公式発信だけでなく、学校・企業・自治会と連携した協力体制を強化する

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

スポーツ実施率が上昇し、スポーツの価値が高まったとしても、その基盤である公共スポーツ施設については、既存施設の老朽化が進んでいる。また高松温水プールの閉鎖などスポーツ施設の環境、財政負担、人口減少等により維持管理がますます厳しくなる。利用者の満足度を向上させるためには、高松緑地公園のナ�이터設備の整備や高松緑地温水プールの代替施設など、ハード整備を進める必要がある。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	26	担当課	中央公民館 地区公民館	事業名	公民館活動費	
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性 (2) 共に創り育む「鹿嶋文化」 取組 ②地域の絆づくりとオーナーシップの醸成			市長政策	O1O 公民館地域づくりの推進	

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	地区まちづくり委員会が地区公民館を拠点とした学びや交流、地域づくりの各種事業等を開催する。	住民主体による各種事業開催	10地区まちづくり委員会（各公民館）で、住民主体による各種事業の計画・実践	○	
	地域住民・団体が相互に協力し特色ある地域づくりの取り組みを考える。	・高松（地域の伝統継承） ・波野（地域子育て） ・平井（歴史再発見）	・高松（夏祭り等で披露） ・波野（子どもの会議等開催） ・平井（絵札募集）	○	
	地域住民が体験型や座学等の事業に参加する。	・高松（夏祭り等で披露） ・波野（地区懇談会開催） ・平井（郷土かるた制作）	・行事参加人数：14,492人	○	
	公民館が各市民団体と連携して、教育や芸術文化の普及等に関する事業を行う（美術展覧会など）	・市民カレッジ 年6回 ・芸術文化事業の開催 ・親子体験教室（和紙絵・陶芸）	・市民カレッジ 2回 ・美術展の開催・和紙絵2回、（追加）将棋体験1回（3日間）	○	
	多くの住民が地域の魅力や伝統・文化を再発見する事業に参加する。	・芸術祭等への新たな参加者（若い世代）の増加	・美術展の出品数が前年度より15点増（うち高校生3人）	○	
	公民館が学校と連携し子どもや若い世代の地域（公民館）活動の機会を提供する。	・各公民館事業の運営側へ、子どもの参加協力の呼びかけ ・学校と合同で住民体育祭を開催	・中学生が各事業の運営ボランティアとして参加 ・学校合同の住民体育祭を開催（高松・豊津）	○	
	子どもの地域参加が促進される	・子どもたちが公民館事業等を通じて地域との触れ合いが生まれる	・中学生がボランティアとして地域活動に参加	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

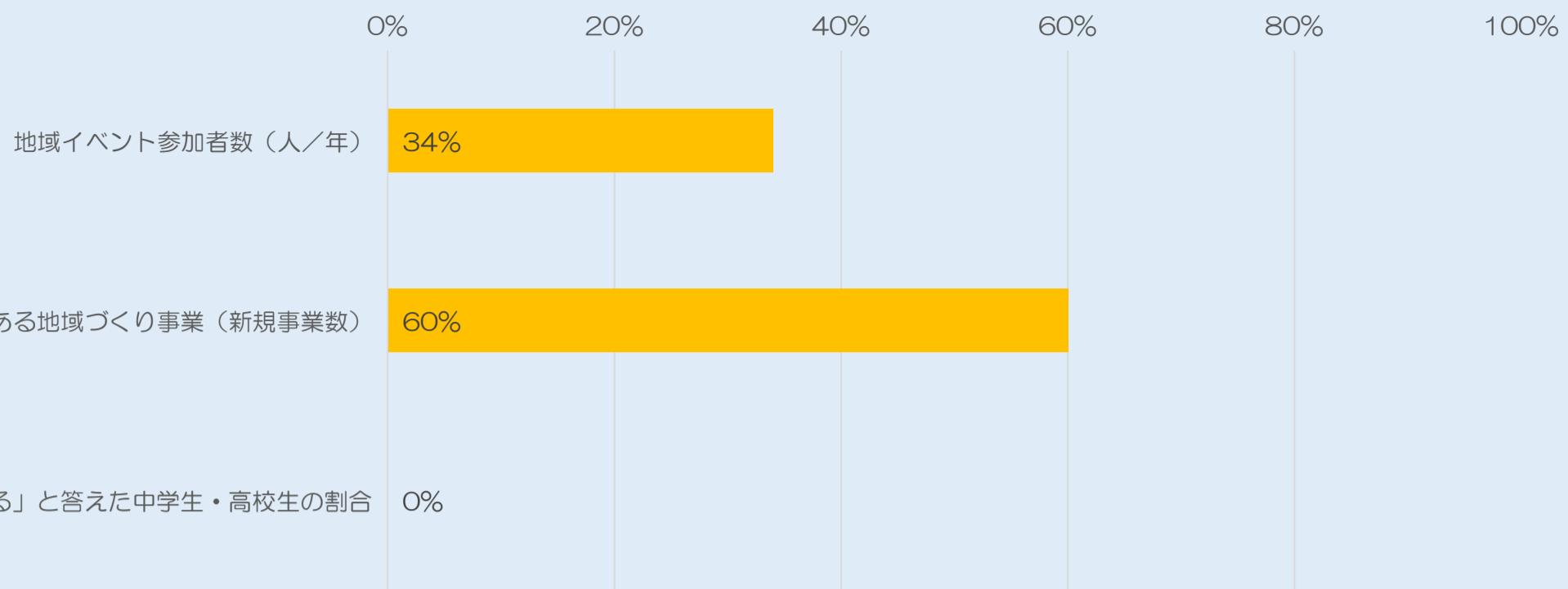
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
地区まちづくり委員会が地区公民館を拠点として、住民主体とした学びや交流、地域づくりの各種事業等を開催する。	各事業への参加者は少しずつ増加しているが、地区まちづくり委員会の委員が774名となり前年度より34名減少している。	地区ごとに、PTA役員や消防団などの若い方の加入促進を図っているが、長年継続された委員（有志）が高齢化により退会	地区まちづくり委員会（公民館）活動への興味・関心を持っていただくため、魅力ある事業の展開とPR強化に努め、新規委員の加入促進を図る。
地域住民・団体が相互に協力し特色ある地域づくりの取り組みを考える。	地域の特色を生かした事業の検討や既存事業の見直しが進められているが、特色ある新規事業の開発・実践が難しくなっている。	既存事業の見直し（断捨離）を行っているが、事業運営に係る予算や人材が限られるため、事業数の増加が困難。	研究集会等を開催し、委員（住民）や公民館職員の更なる資質向上を図る。地区コミュニティプランをもとに、企業等の協賛や協力を含めて検討し、事業の質の向上を図る。
公民館が各市民団体と連携して、教育や芸術文化の普及等に関する事業を行う（美術展覧会など）	・市美術展、芸術祭、文化フェスティバルの3大事業への参加者増に対して、出品者が減少	創作活動者（出品者）の高齢化、創作活動離れ	鹿嶋市文化協会と連携し、出品規格・対象等の見直しや新規出品者の更なる拡充を図る。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）		指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 地域イベント参加者数（人／年）		↑	フロー指標 単年度増減型	産出	42,000	14,492	34%
② 特色ある地域づくり事業（新規事業数）		↑	ストック指標 成果累積型	活動	10	6	60%
③ 「鹿嶋を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合		↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	70	1月実施予定	-

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

事業全体として、計画どおり進捗している。

- 各地区の公民館まつりや防災訓練等で中学生ボランティアを呼びかけるなど、子どもの地域参加の機会を促進した。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
地区まちづくり委員の更なる新規加入を図り、持続可能な運営体制の確保と、地域コミュニティの活性化を意識した取り組みを推進する。	事業内容が決まり次第、必要な修正を行う。	次年度以降	特になし

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

（This section is empty in the provided image, indicated by a large light blue rectangular area. It likely corresponds to the 'Other' section mentioned in the header.)